

2018 年度 学生調査報告

九州ルーテル学院大学

はじめに

九州ルーテル学院大学(以下、本学)では 2016 年度より毎年、IR 委員会による学生の動向に関するアンケート調査を実施しております。2018 年度においては、教育や学生支援の質の向上や大学運営の改善のためにさらにアンケート項目を改変し、集計や分析の手続きを少し変更しております。

地域に役立つ研究・実践と質の高い教育の保障を目指して向上を志す本学は、地域の皆さまや学生保護者の皆さまに説明責任を果たし、皆さまからご意見をいただくために、ここにアンケート調査結果を公表いたします。この報告書についてご意見・ご質問がございましたら、こちらまで(メール:koho@klc.ac.jp)でお知らせください。

調査概要

《調査対象者》

2018 年度在学学生 717 名(内訳:心理臨床学科 332 名,人文学科こども専攻児童教育コース(以下,児童教育コース)88 名,人文学科こども専攻保育コース(以下,保育コース)131 名,人文学科キャリア・イングリッシュ専攻(以下,キャリア・イングリッシュ専攻)169 名)。

《調査時期》

2018 年 12 月下旬から 2019 年 1 月。

《調査方法》

1～4 年生(5 年以上在籍者も含む)および長期履修生にアンケートを実施しました。学科・専攻の必修科目の授業,または特別研究および卒業研究の授業(ゼミ)でアンケートを配布・回収しました。

《回収率》

回答項目によって若干異なりますが、回収率は、在学生全体で約 78.0%,心理臨床学科で 75.0%,児童教育コースで 78.4%,保育コースで 81.7%,キャリア・イングリッシュ専攻で 79.2%でした。高い回収率であり、集計データは本学学生の実態を全体的に理解できるという意味で信頼できるものと思われます。

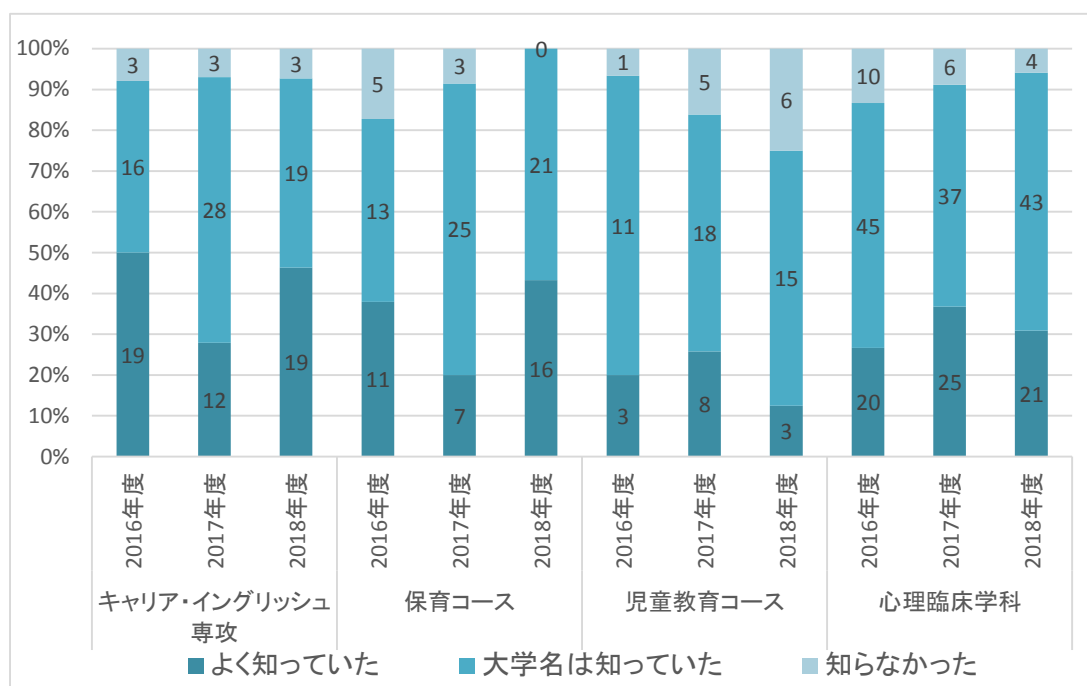
《分析方法》

回答データの基本集計として、在学生全体,学年ごと,学科・専攻・コースごとに人数,人数比率,平均値を算出しました。

本学認知度

1 年生を対象に、進学先を本格的に検討する前から本学のことをどの程度知っていたかを尋ねました。下図は、2016 年度、2017 年度、2018 年度の調査データから回答した人数の比率を示したものです。棒グラフ内に表示された数値ラベルは回答人数を表します。学科や専攻の教育内容までよく知っていた 1 年生の人数比率は 50%を下回り、調査年度や学科・専攻・コースによって異なります。大学名を知っていた学生を含めた本学認知度は 70～90%程度で、調査年度によって異なります。保育コースと心理臨床学科では大学名を知っていた学生を含めた本学認知度は少し上昇、キャリア・イングリッシュ専攻では安定しているようです。

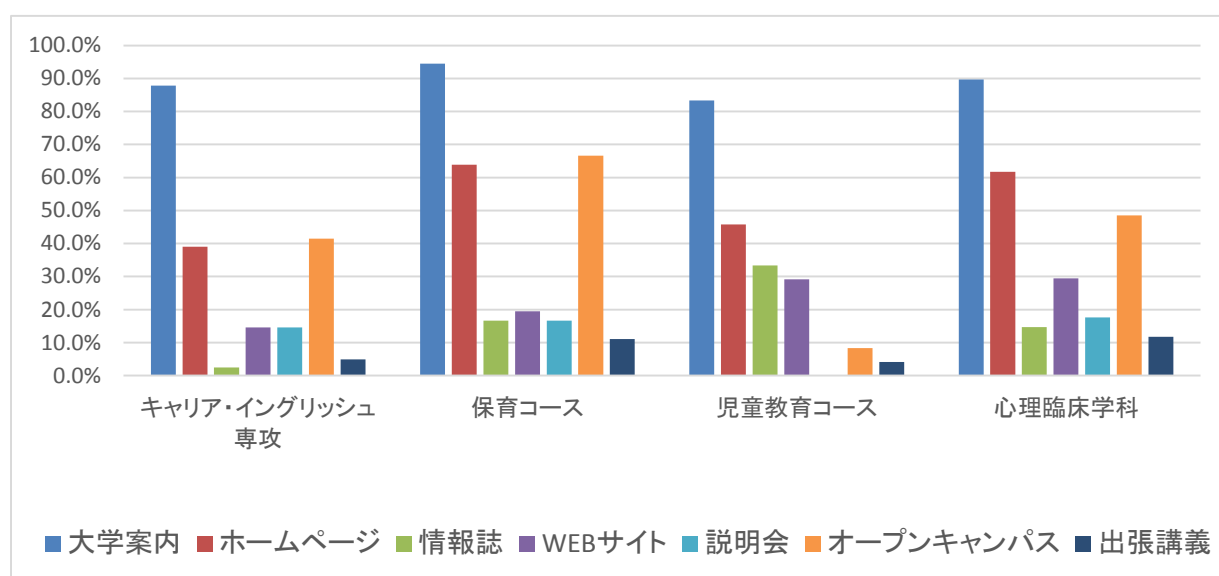
ただし、ここで示す認知度はあくまで入学した学生の回答から得たものですので、実際に世間一般の人々や大学受験を検討している高校生がどれほど本学を認知しているかを必ずしも反映していないことに注意しなくてはなりません。



本学の情報源

1年生を対象に、本学への進学を検討するうえで役立った情報源は何かを尋ねました。昨年度調査と同様に、どの学科・専攻コースにおいても80%以上の1年生が大学案内・パンフレットをあげていました。大学案内・パンフレットは、本学教職員が具体的に検討・作成し、教育内容・カリキュラムや取得可能な資格、卒業後の進路などの情報が詳細に掲載されており、進学の最終的な検討においては重要な情報源と思われます。また、ホームページやオープンキャンパスを回答した比率も高く、ホームページやオープンキャンパスから教育内容や入試に関する情報を収集したり本学の教育的風土を感じ取ったりしているものと思われます。

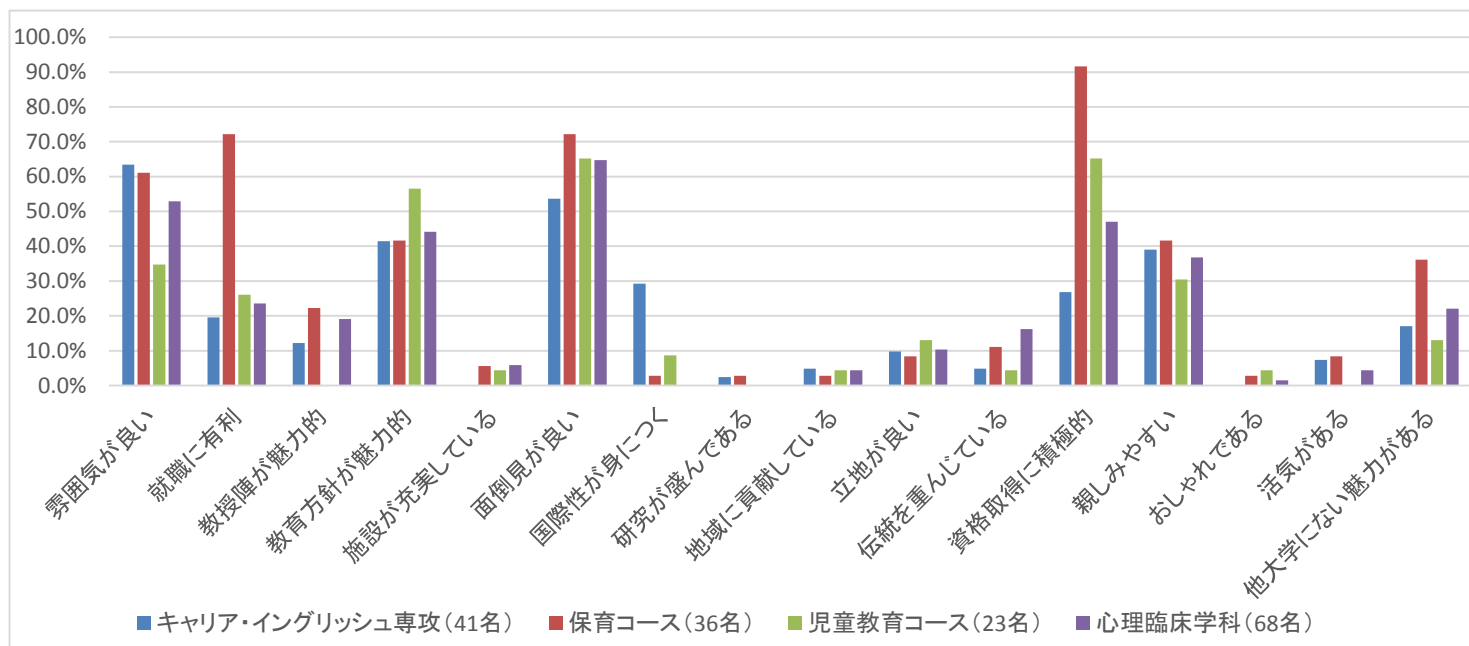
また、児童教育コースの1年生のオープンキャンパス回答率が低いですが、これはオープンキャンパスにそもそも参加していないためと思われます。出張講義も回答率が低いですが、これは出張講義がそもそも特定の学問分野を高校生が知る機会であって、進学先検討に有用な情報を得る機会ではないためだと思われます。



本学に対する入学前イメージ

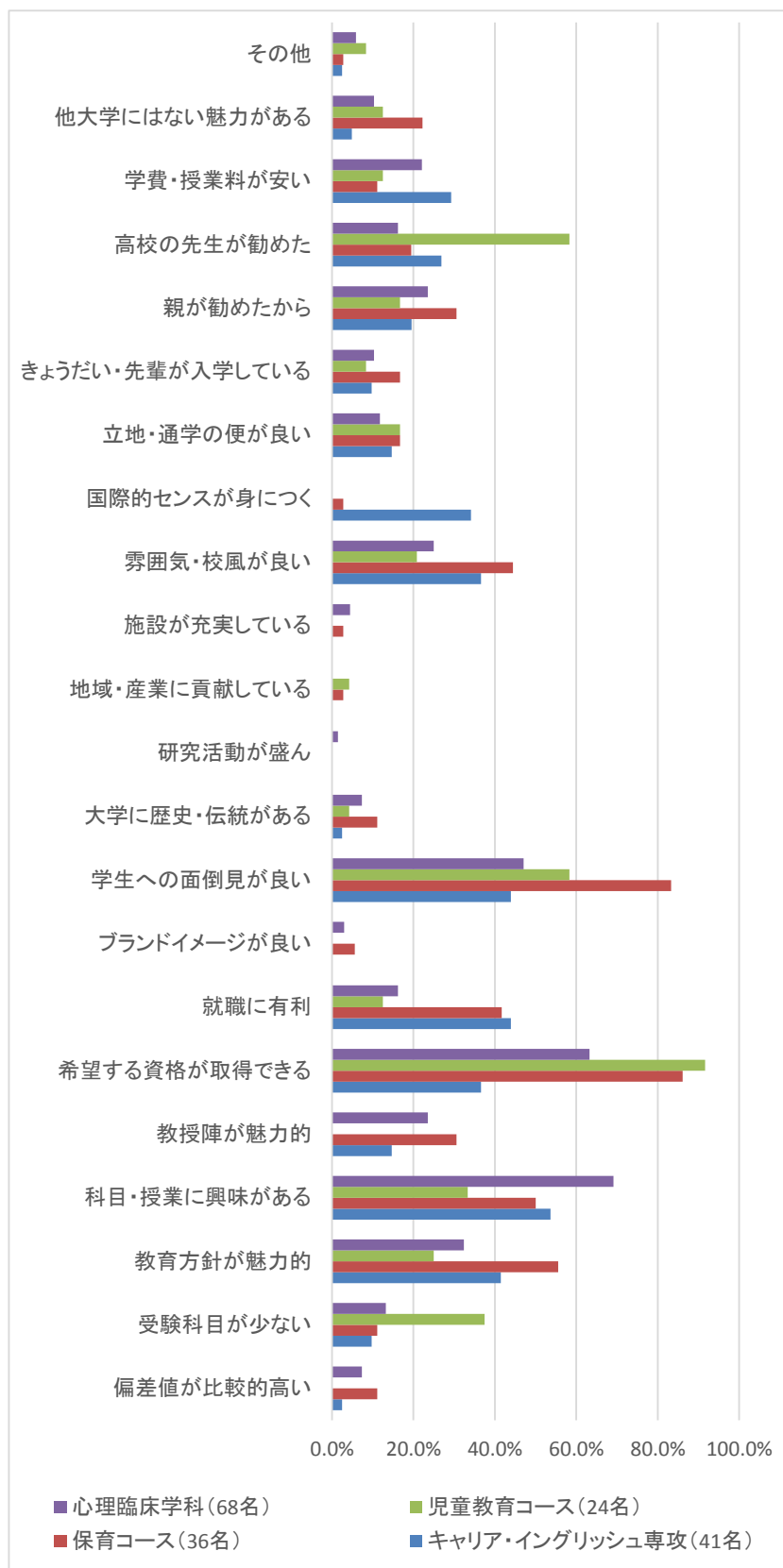
1年生を対象に、入学前に本学に対してどのようなイメージをもっていたかについて該当項目を選択する形(複数選択可)で回答を収集しました。全体的にみると、昨年度調査と同様に、「雰囲気が良い」「教育・カリキュラムが魅力的」「学生への面倒見が良い」「資格取得に積極的である」「親しみやすい」という印象が強いようです。一方、本学に対して「施設が充実している」「研究が盛んである」「地域・産業に貢献している」「おしゃれである」「活気がある」といった印象はあまり持っていないようです。

また、学科・専攻・コース別にみると、特に保育コースの1年生の多くは本学に対して「雰囲気が良い」「学生への面倒見が良い」というイメージを持っており、こうしたイメージをもとに本学を進学先に決めている可能性があります。



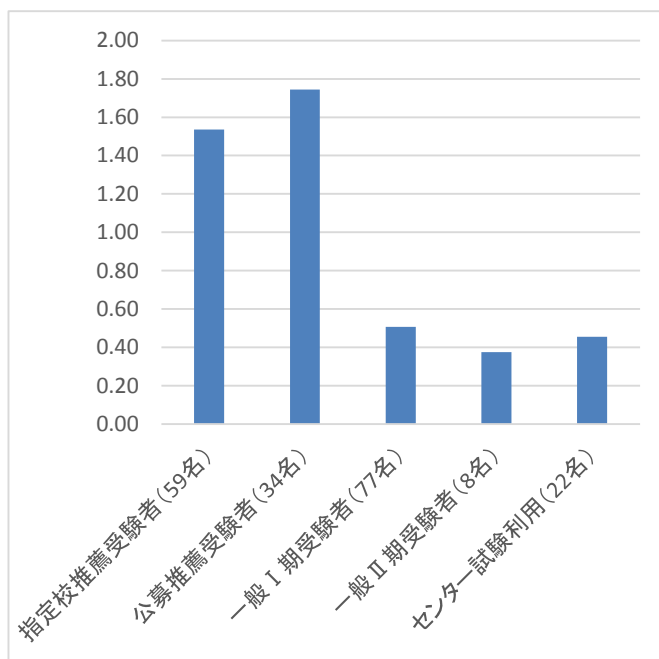
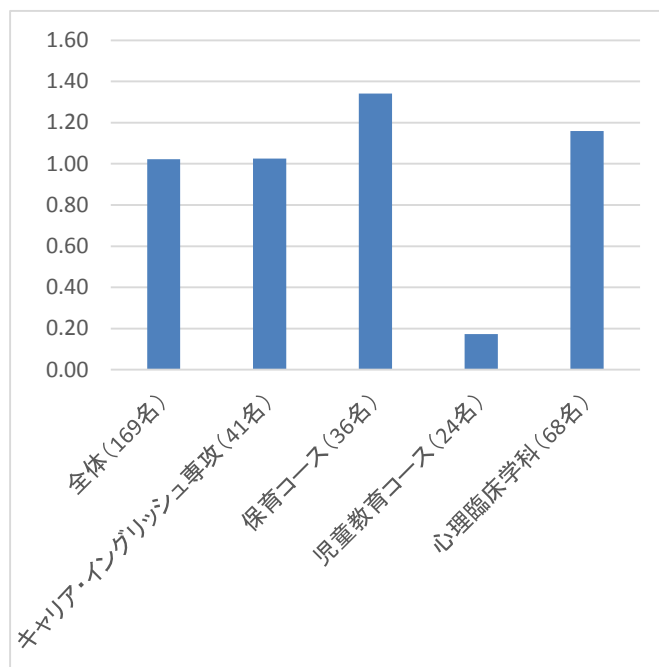
本学入学の理由

1年生を対象に、本学への入学を決めた理由について22の理由から複数選択するよう求めました。全体的にみると、昨年度調査と同様に、「科目・授業に興味がある」「希望する資格を取得できる」「学生への面倒見が良い」「雰囲気・校風が良い」が本学入学の理由になっているようです。また、保育コースでは「学生の面倒見が良い」という理由を多く挙げており、子どものケアに関わる学ぶ学生の多くは学生自身がケアされる雰囲気を求めているようで、興味深いところです。さらに、児童教育コースでは「高校の先生が勧めた」という理由が際立って多く、高校の先生の進路助言が大きく働いているようです。



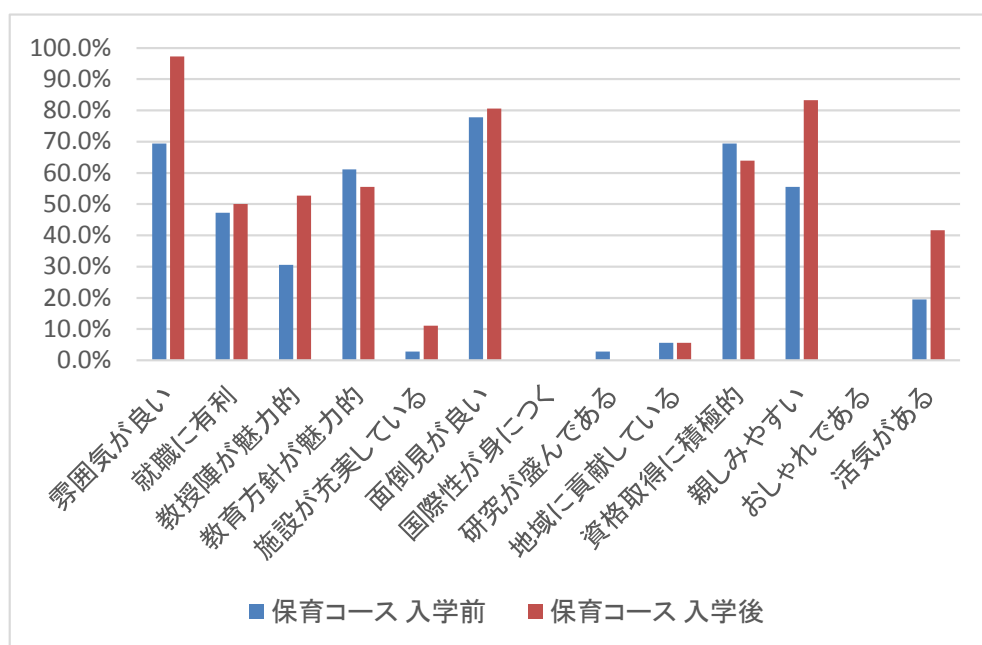
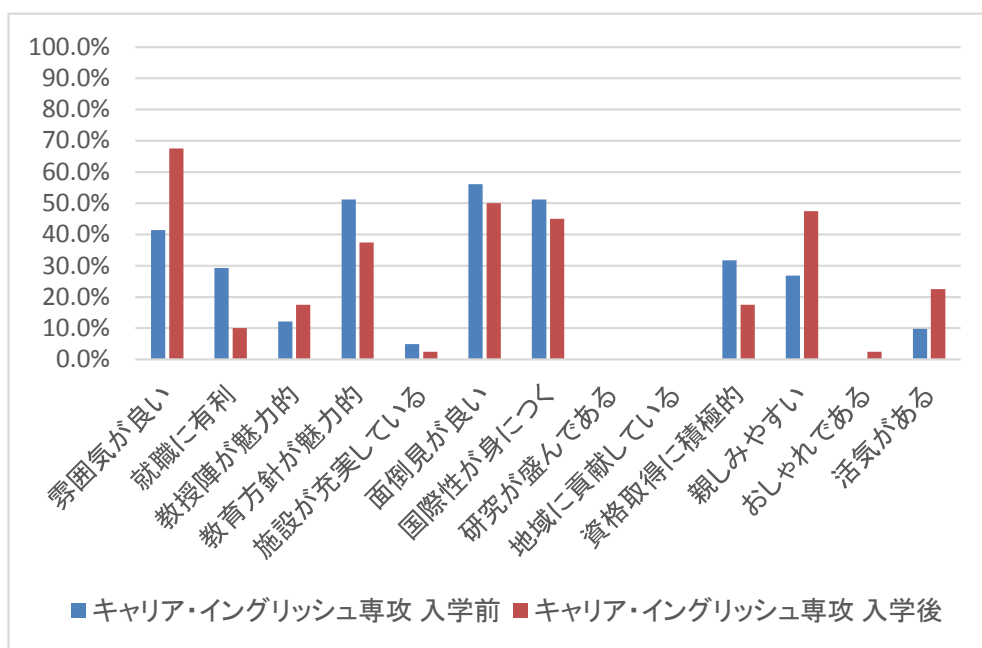
オープンキャンパス参加状況

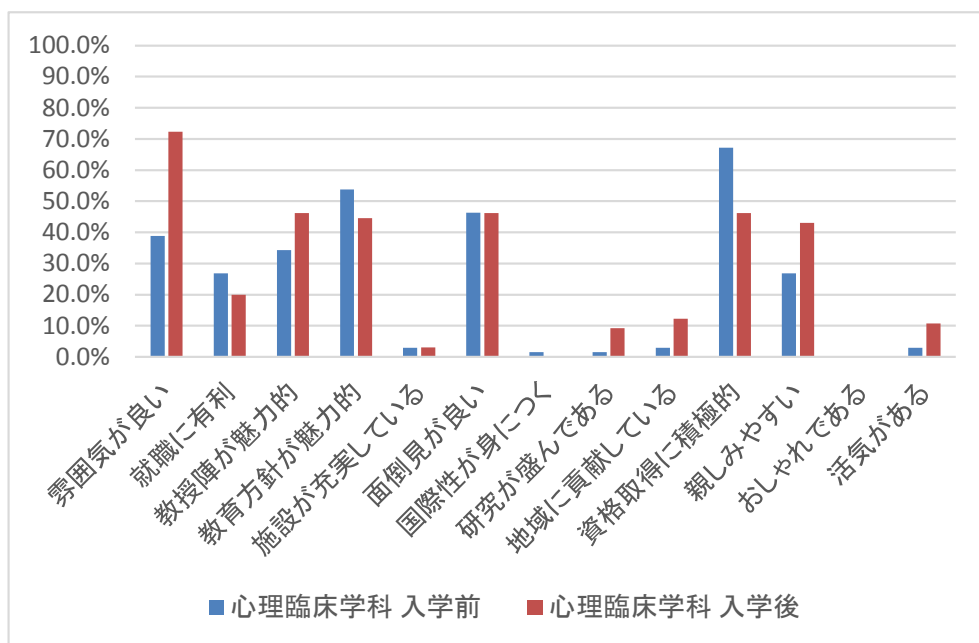
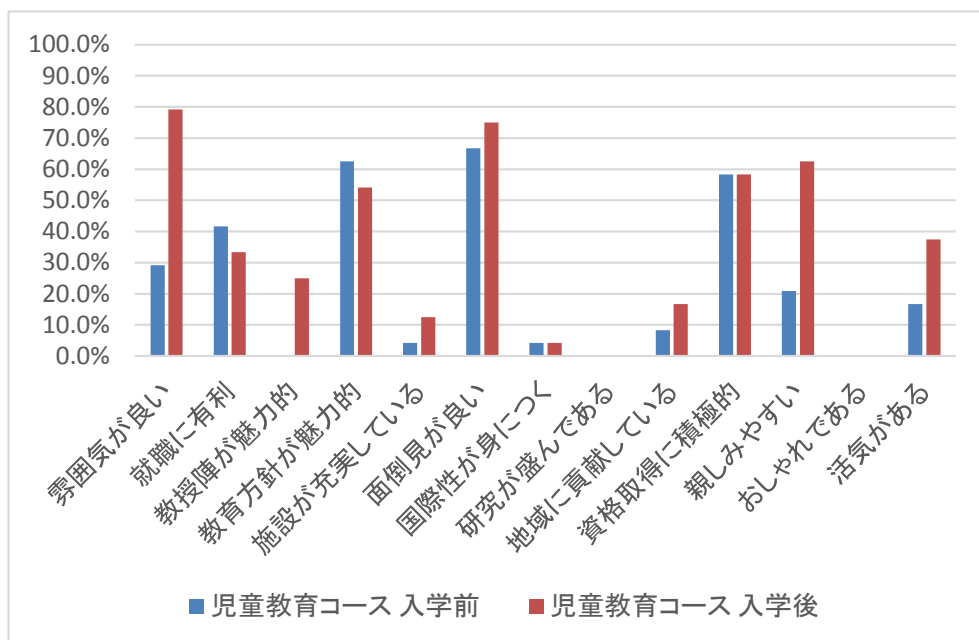
1 年生に入学までに本学のオープンキャンパスに何回参加したかを尋ね、学科・専攻・コースごとに、また各種入試受験者ごとにオープンキャンパス参加回数の平均値を以下の図のとおりに集計しました。昨年度調査と同様に、児童教育コースの学生の多くが本学のオープンキャンパスへの参加が少ないことが明らかです。また、指定校推薦入試受験者や公募推薦入試受験者に比べると、一般Ⅰ期・Ⅱ期入試受験者はオープンキャンパスにあまり参加していないようです。



所属学科・専攻・コースに対するイメージの入学前後での変化

1年生のデータをもとに、自分自身が所属している学科・専攻・コースに対する各種イメージの選択比率を入学前後で比較しました。その結果を下図のとおり示します。どの学科・専攻・コースも「雰囲気が良い」「親しみやすい」というイメージが入学後に増しています。学科・専攻・コースごとにみると、特に児童教育コースと保育コースでは「活気がある」という印象が増加しているのが特徴的です。一方、心理臨床学科では、「資格取得に積極的」というイメージが入学後に下降しており、入学前から特定の資格の取得に強い期待があったことがうかがえます。何が契機でそのイメージが喪失したのかを把握・分析する必要があると思われます。

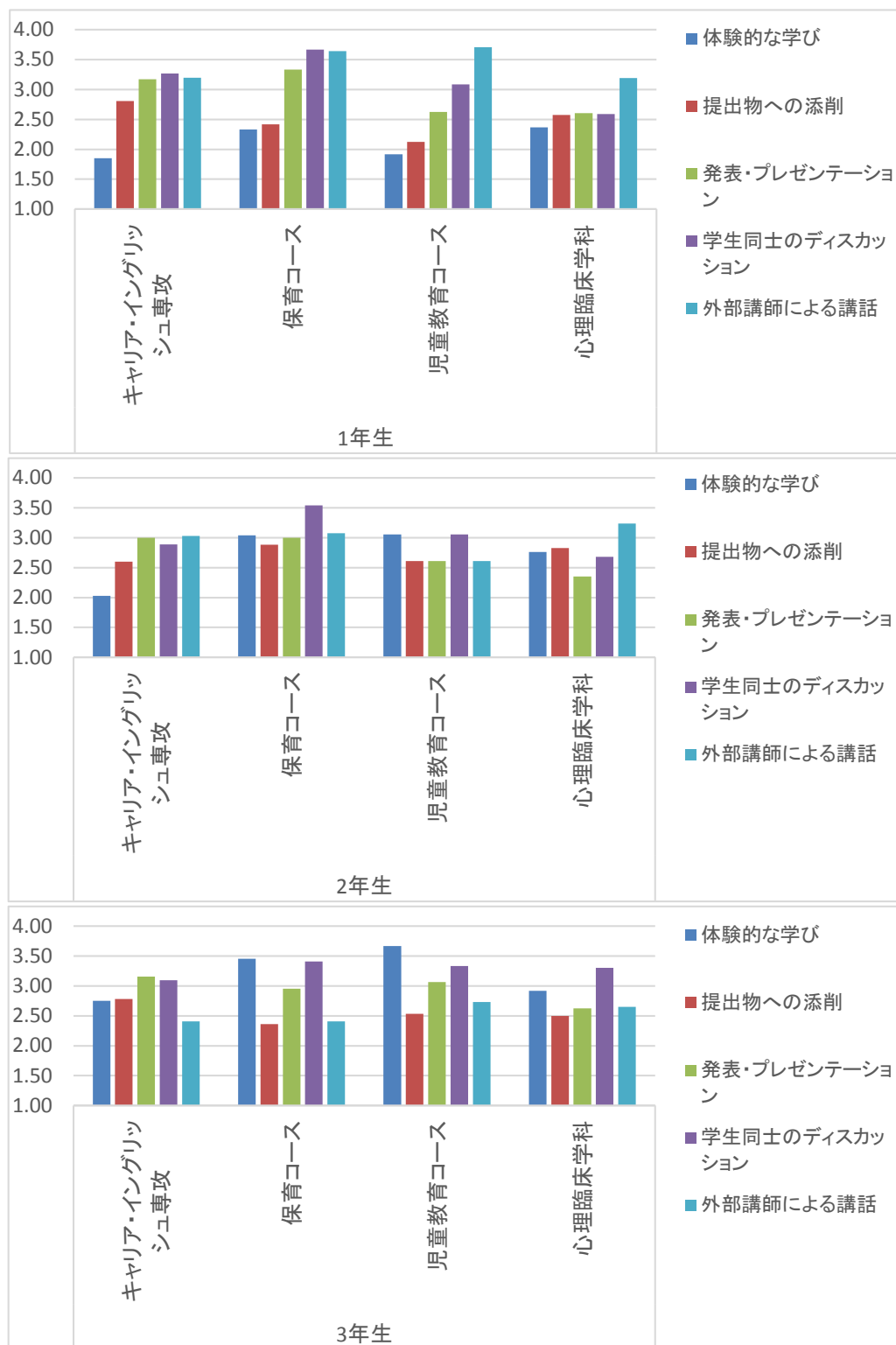


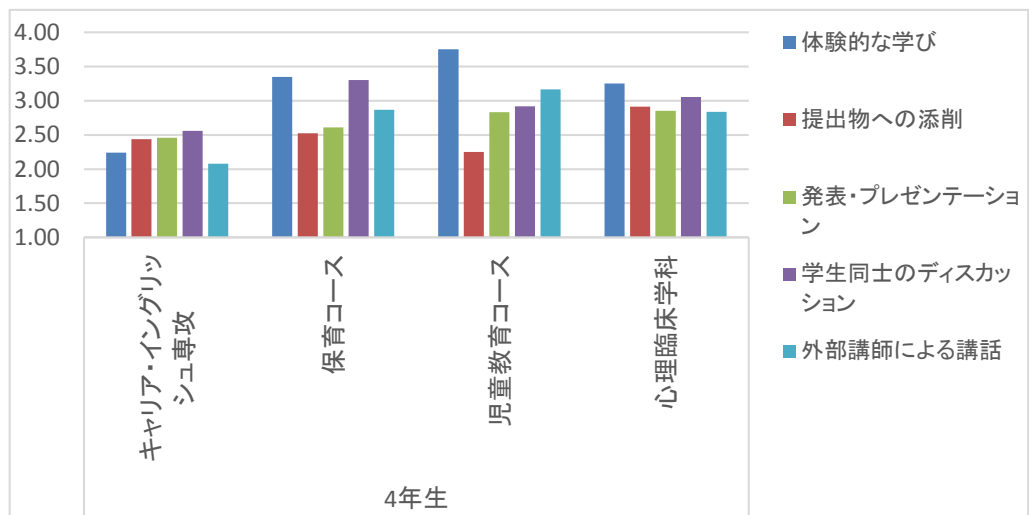


学修体験

2018 年度中の学修体験を振り返ってその体験や態度がどの程度あったのかについて4件法（「1. ほとんどなかった」「2. あまりなかった」「3. まあまああった」「4. かなりあった」）で回答していただきました。学年ごと、また学科・専攻・コースごとに回答の平均値は下図のとおりです。

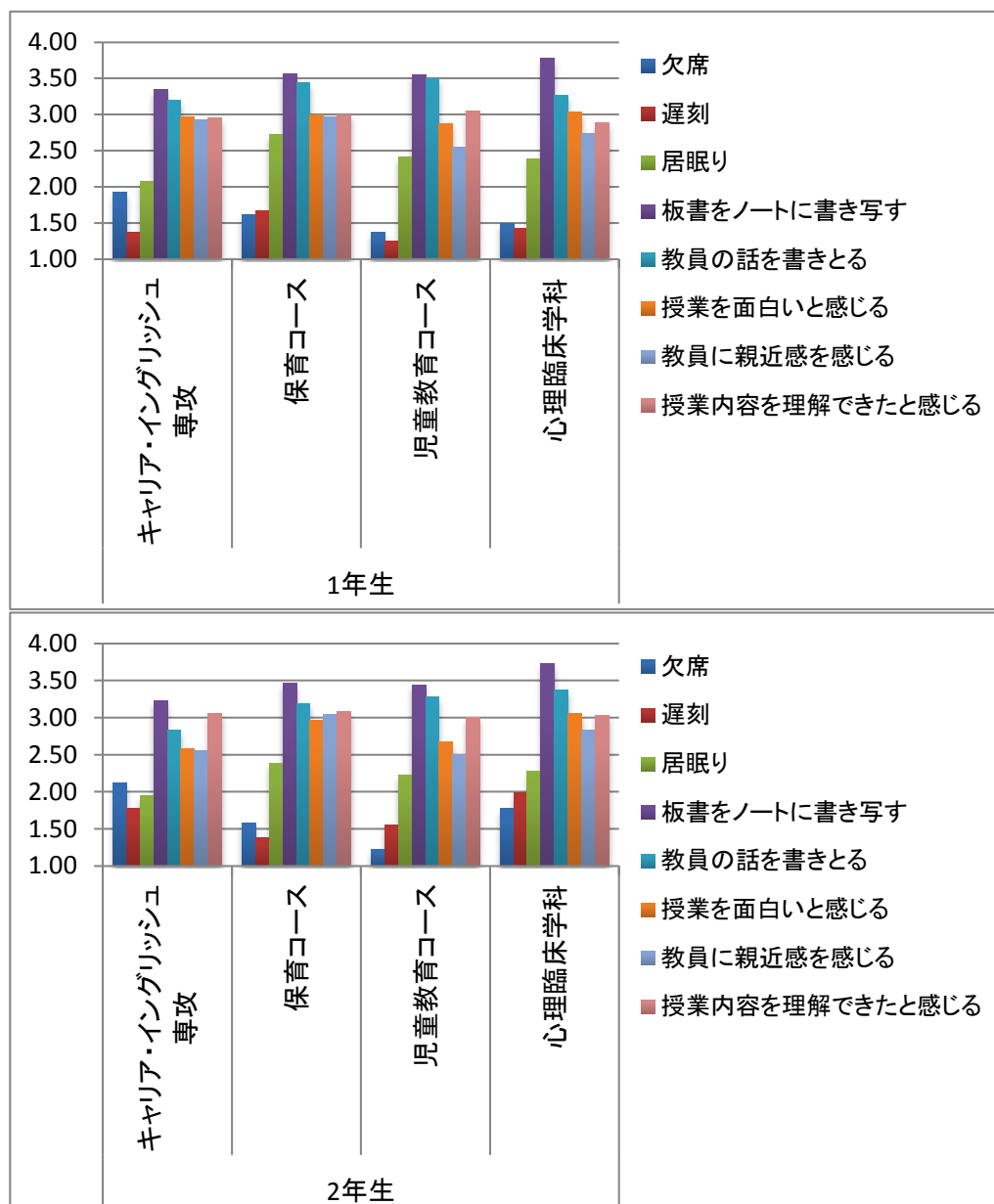
学科・専攻・コースや学年によって提供する学びの内容や方法が異なるため、特に全体的な傾向を捉えることはできませんが、体験的な学びの多少については実習科目が各学科・専攻・コースで開講される学年が関連しているものと思われます。

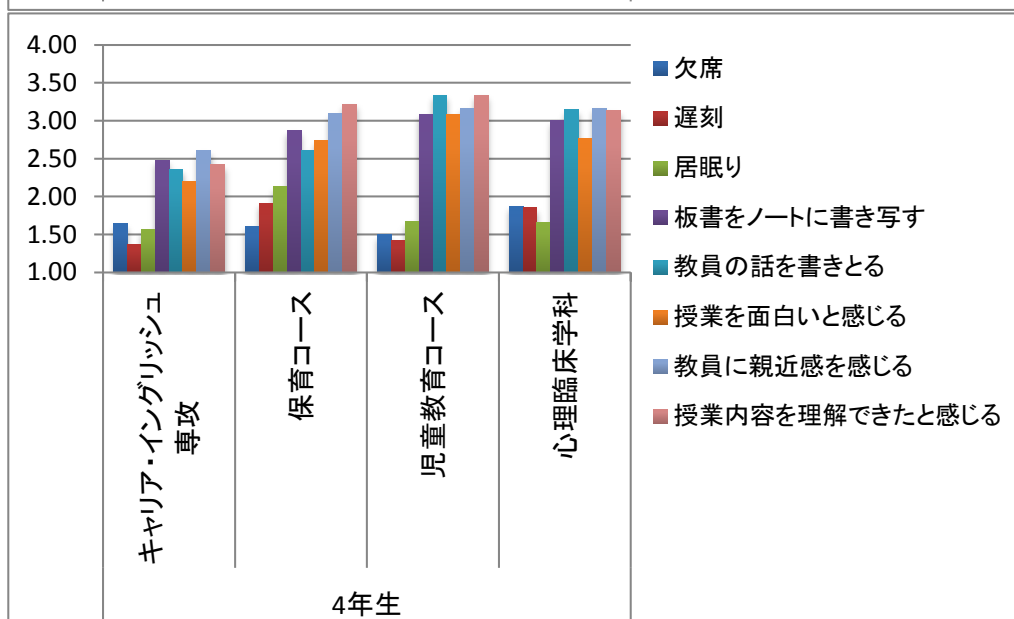
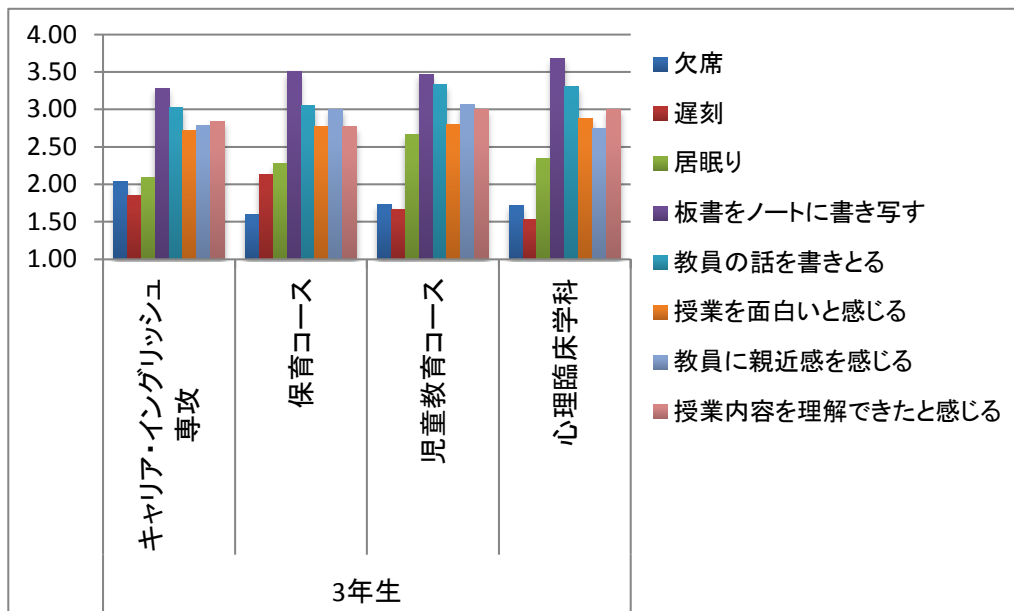




学修態度・行動

2018 年度中の授業の欠席や遅刻の状況は、どの学年でも 1.5～2 ポイントのところにあり、学生の多くが欠席や遅刻は「あまりなかった」と報告しています。ベネッセ教育総合研究所(2013)の「第2回大学生の学習・生活実態調査報告書」によれば人文科学系の学部の平均出席率が 8.5 割ということで、全国平均欠席率は 1.5 割になります。今後は、本学の学生の欠席率の調査も含めて報告できればと思います。また、居眠りも特定の学年や学科・専攻・コースで評定値が高く、学生の生活スタイルに注意を要するところです。そして、全体的傾向として、「板書を書き写す」「教員の話を書きとる」の評定値が高いわりに、「授業を面白いと感じる」「授業内容を理解できたと感じる」の評定値がそれほど高くないことは学修成果や教育に対する学生の満足感という観点からより詳細に分析する必要があるように思います。

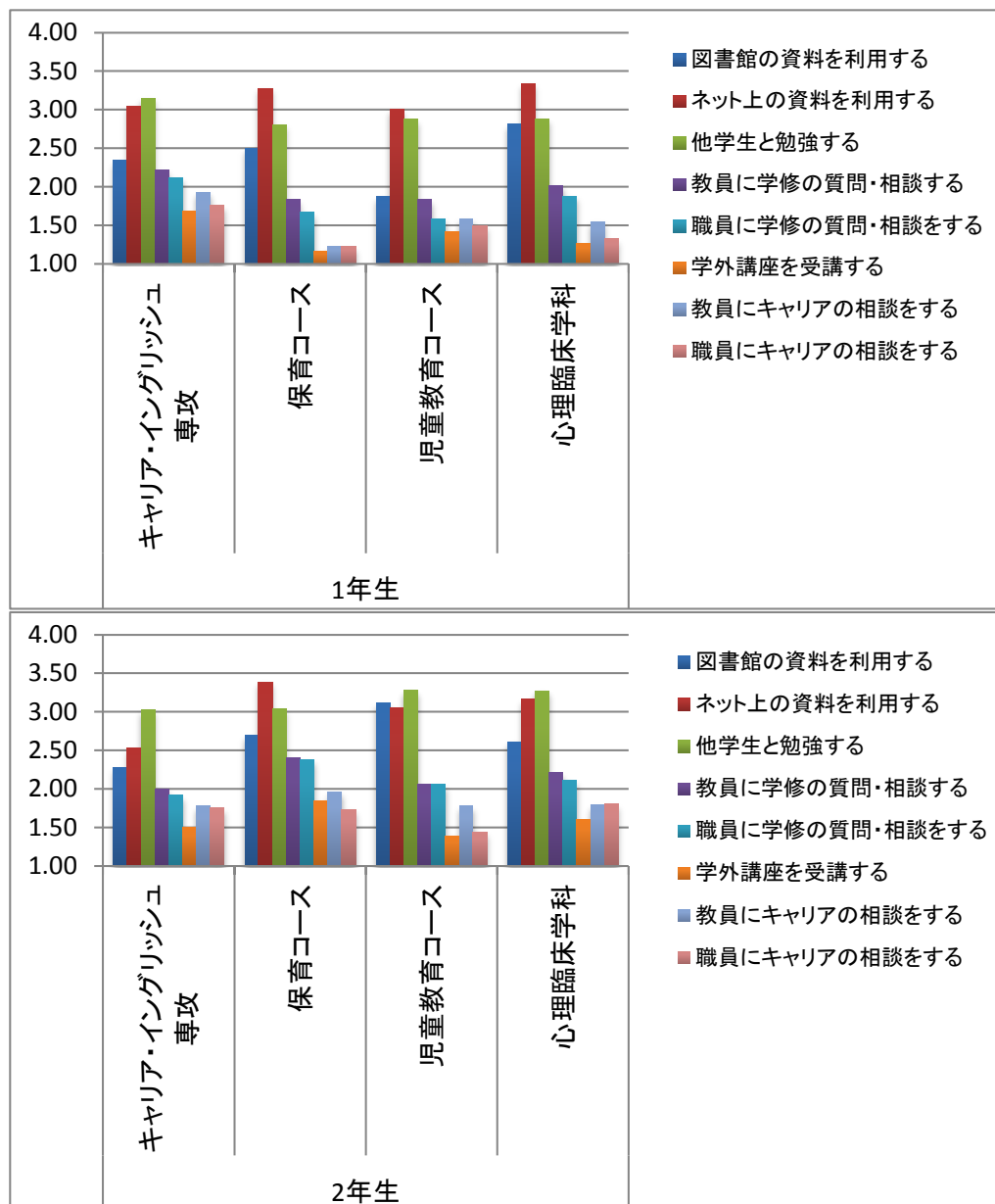


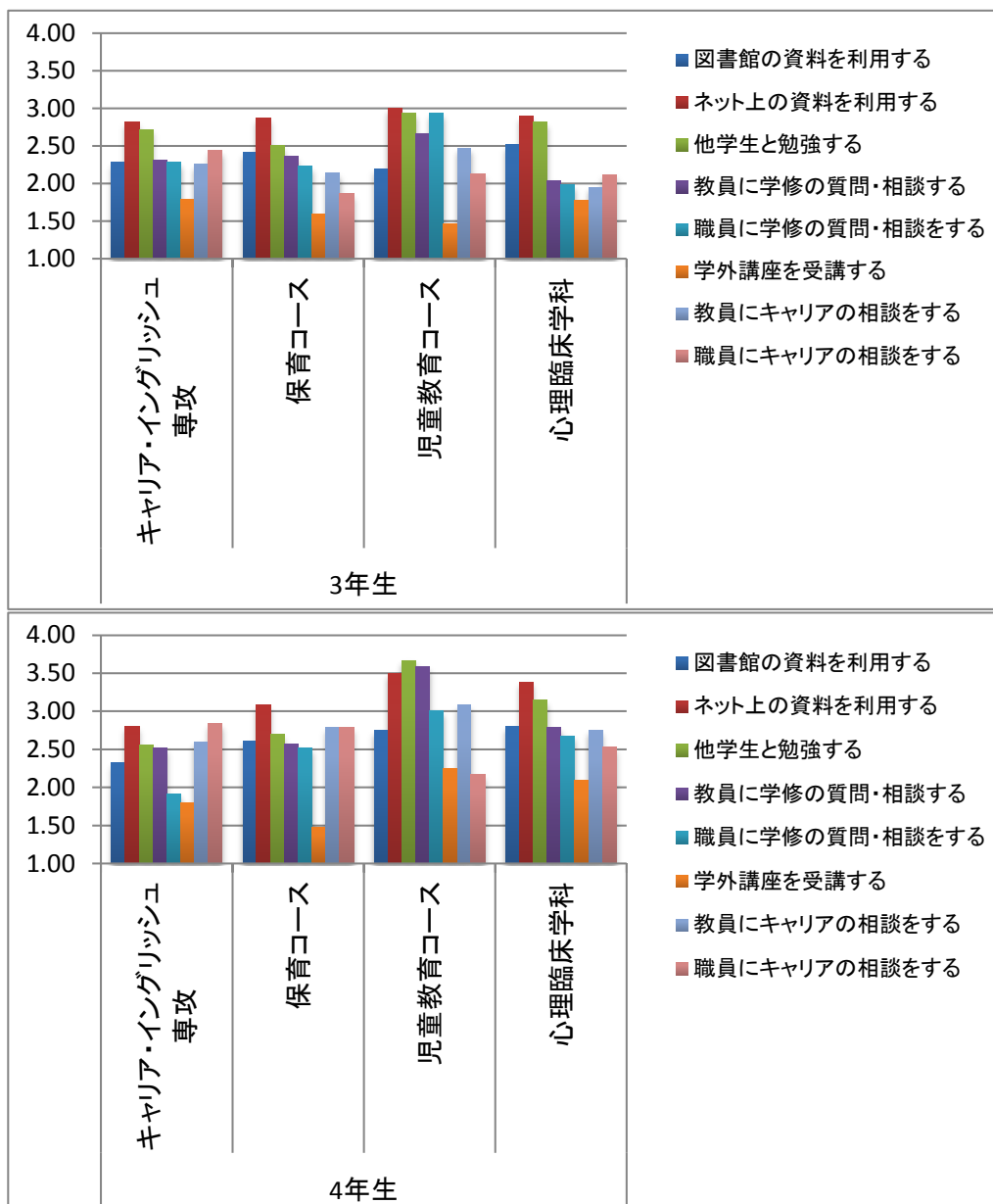


授業以外の学修活動

2018 年度中の授業以外の8つの学修活動の程度を全体的にみると、「ネット上の資料を利用する」の評定値が高いのに対して「図書館の資料を利用する」の評定値が低いというパターンが見受けられます。この結果だけで正確な図書館の利用率が把握できるわけではありませんが、現代は様々な資料が電子化されてどこでも入手できる状況にあり、あえて書籍や雑誌を手にする必要はないのかもしれませんが。

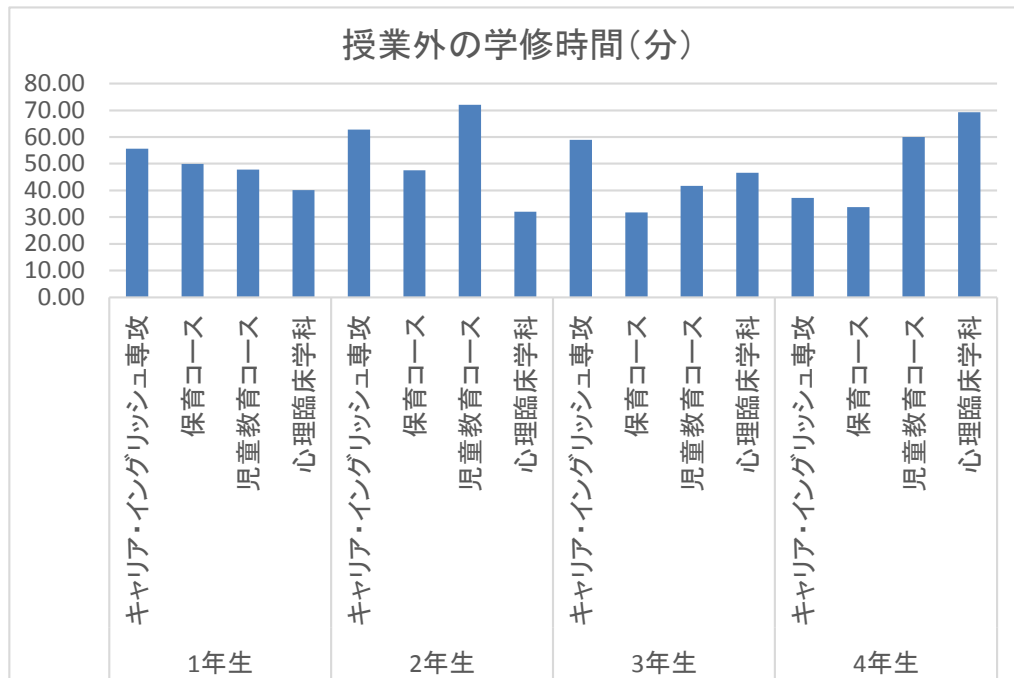
また、学科・専攻・コース別にみると、児童教育コース 4 年生において「教員に学修の質問・相談をする」の評定値が他に比べて高く、教員採用試験対策が関わっているものと思われる。



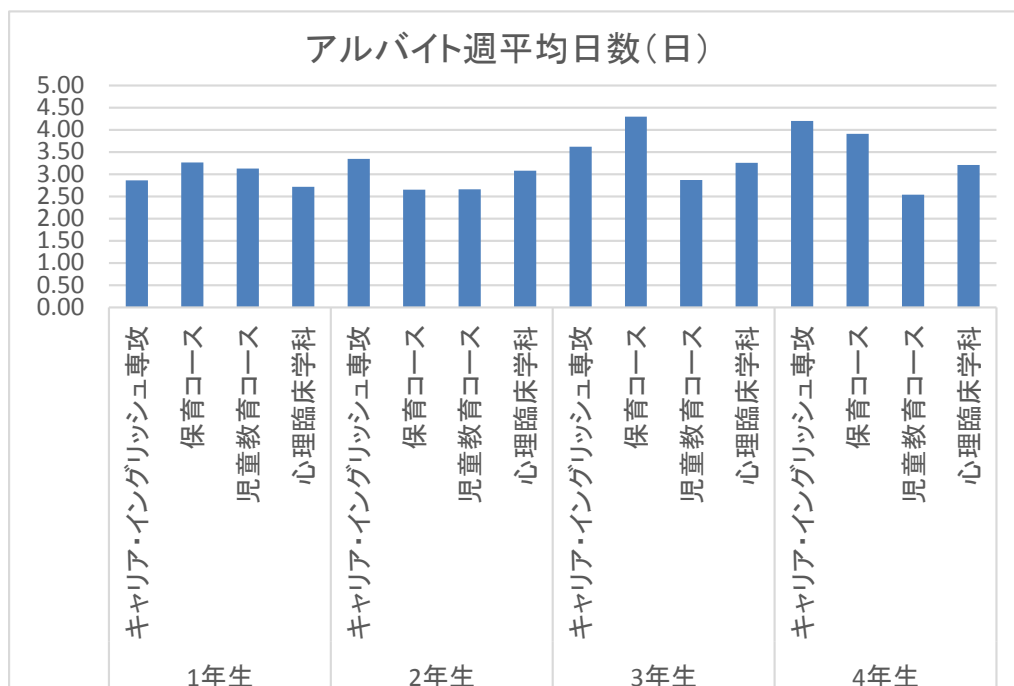


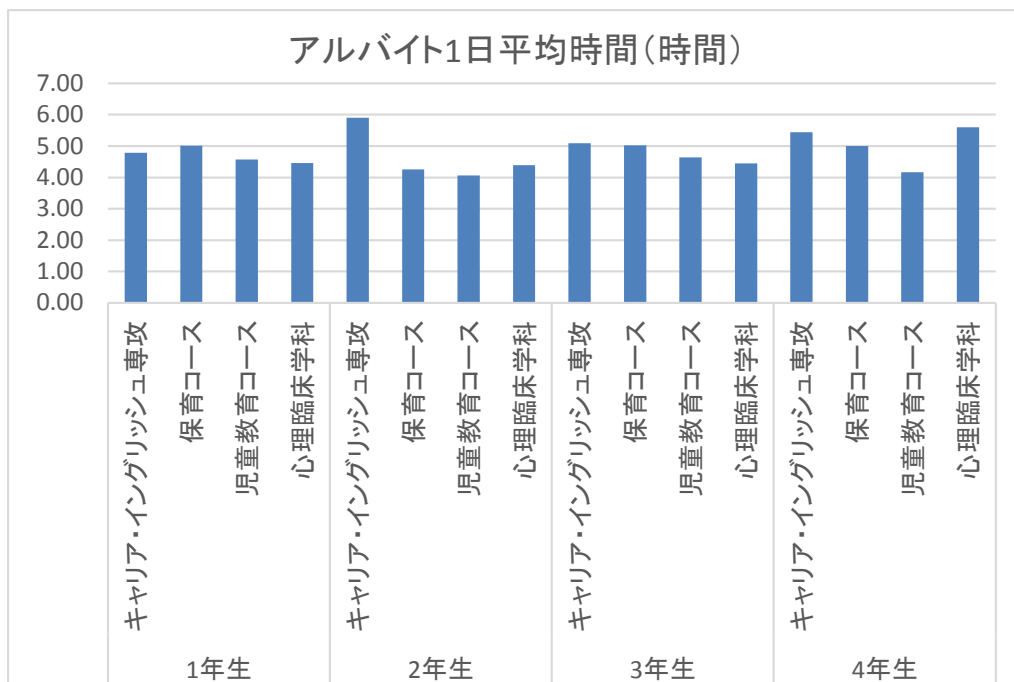
授業以外の活動時間

授業外の学修時間(予習・復習や課題)は1日平均何分かを尋ねたところ、どの学年も30分以上でした。学生生活実態調査報告書(全国大学生協連合会, 2018)によれば文系大学の授業外学修時間は1日平均32.2分ですので、本学学生は授業外も学修に積極的に取り組んでいると言えます。しかし、授業外の学修時間は学年や学科・専攻・コースによってかなり異なり、どうしてそのような違いがあるのかをさらに分析する必要があります。

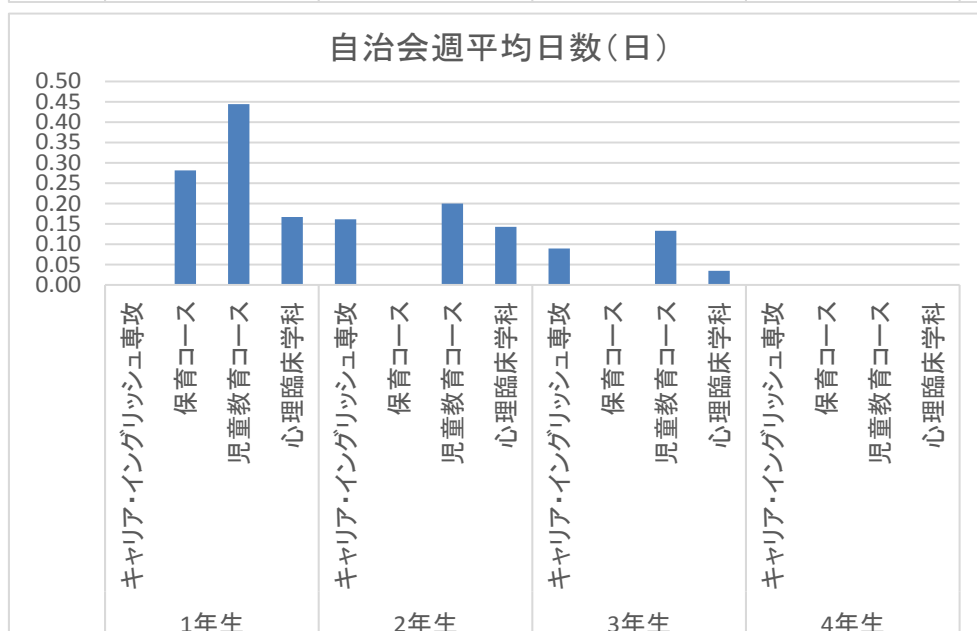
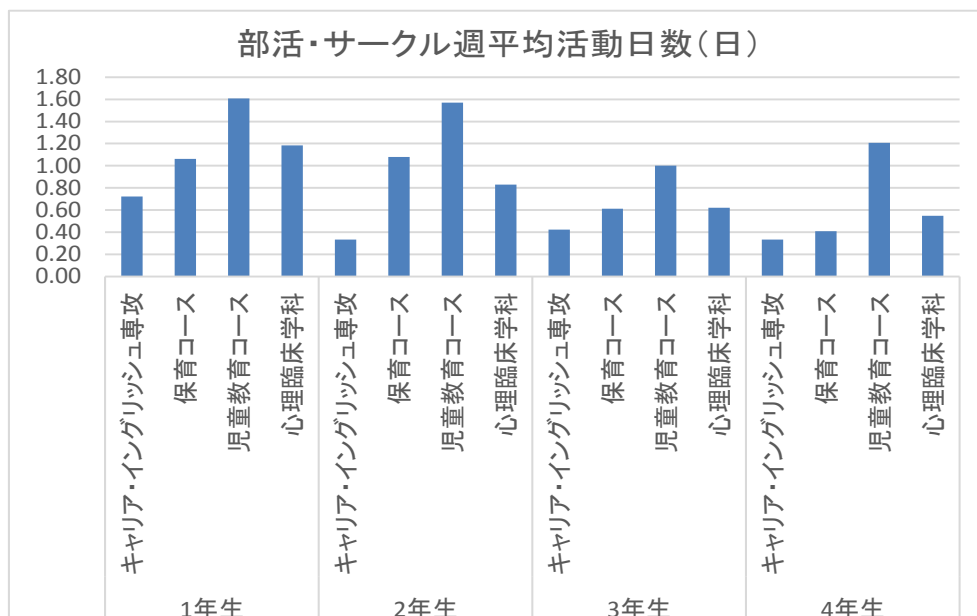


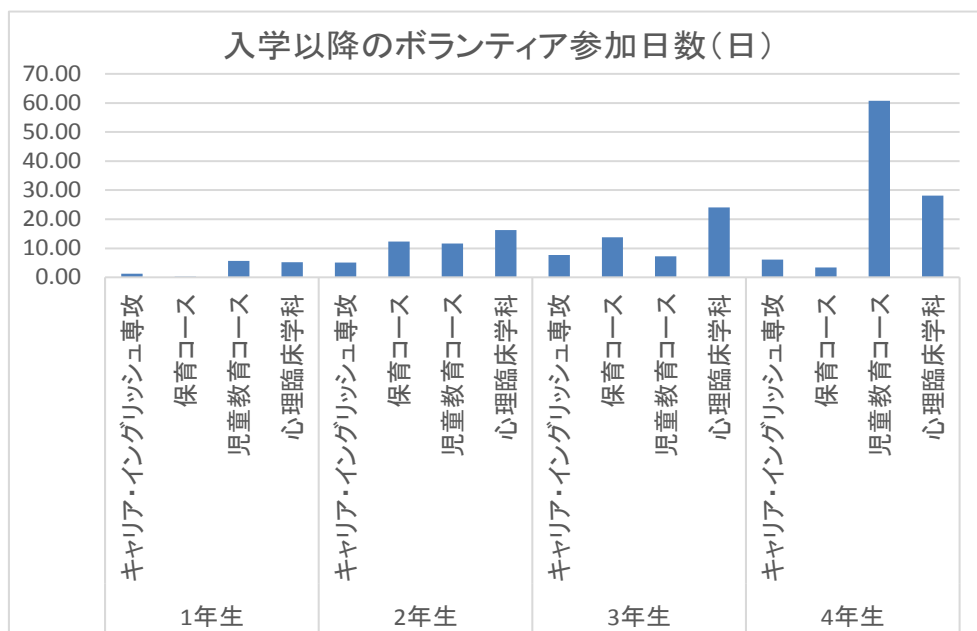
アルバイトについては、週平均勤務日数を回答するよう求めました。第52回学生生活実態調査報告書(全国大学生協連合会, 2017)では週平均2.2日勤務ということで、昨年度調査と同様に、本学はそれを上回っています。また、アルバイトの1日平均時間は4時間以上であり、アルバイトのある日は1日のうちの多くの時間をアルバイトに割いていることが分かりました。



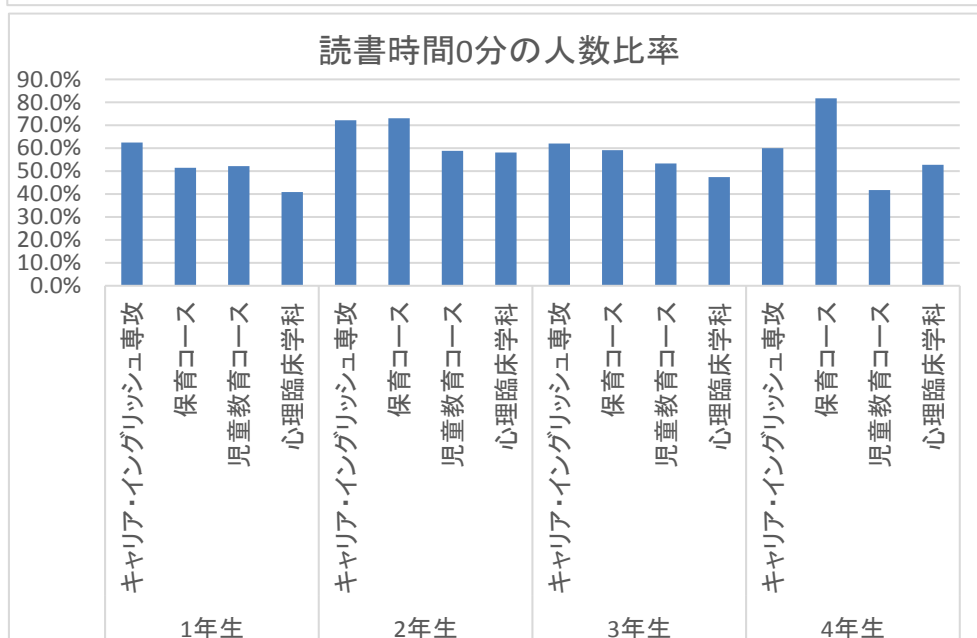
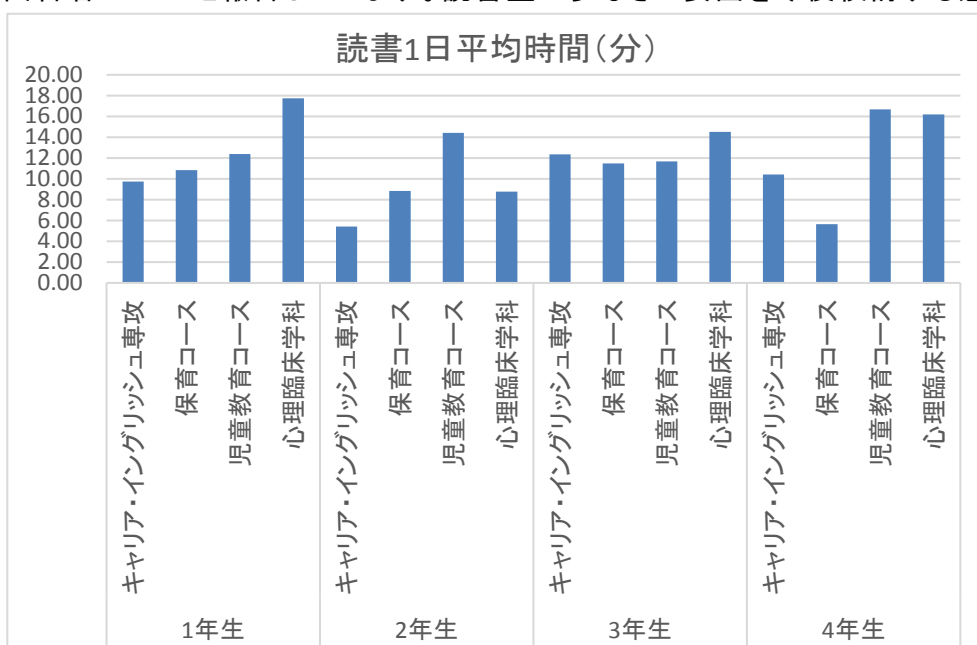


部活・サークル参加状況, 自治会参加状況, ボランティア参加状況は以下の図のとおりです。ボランティア参加時間の4年生での増加は, 4年生になると時間的な余裕が生まれることが関係しているかもしれません。





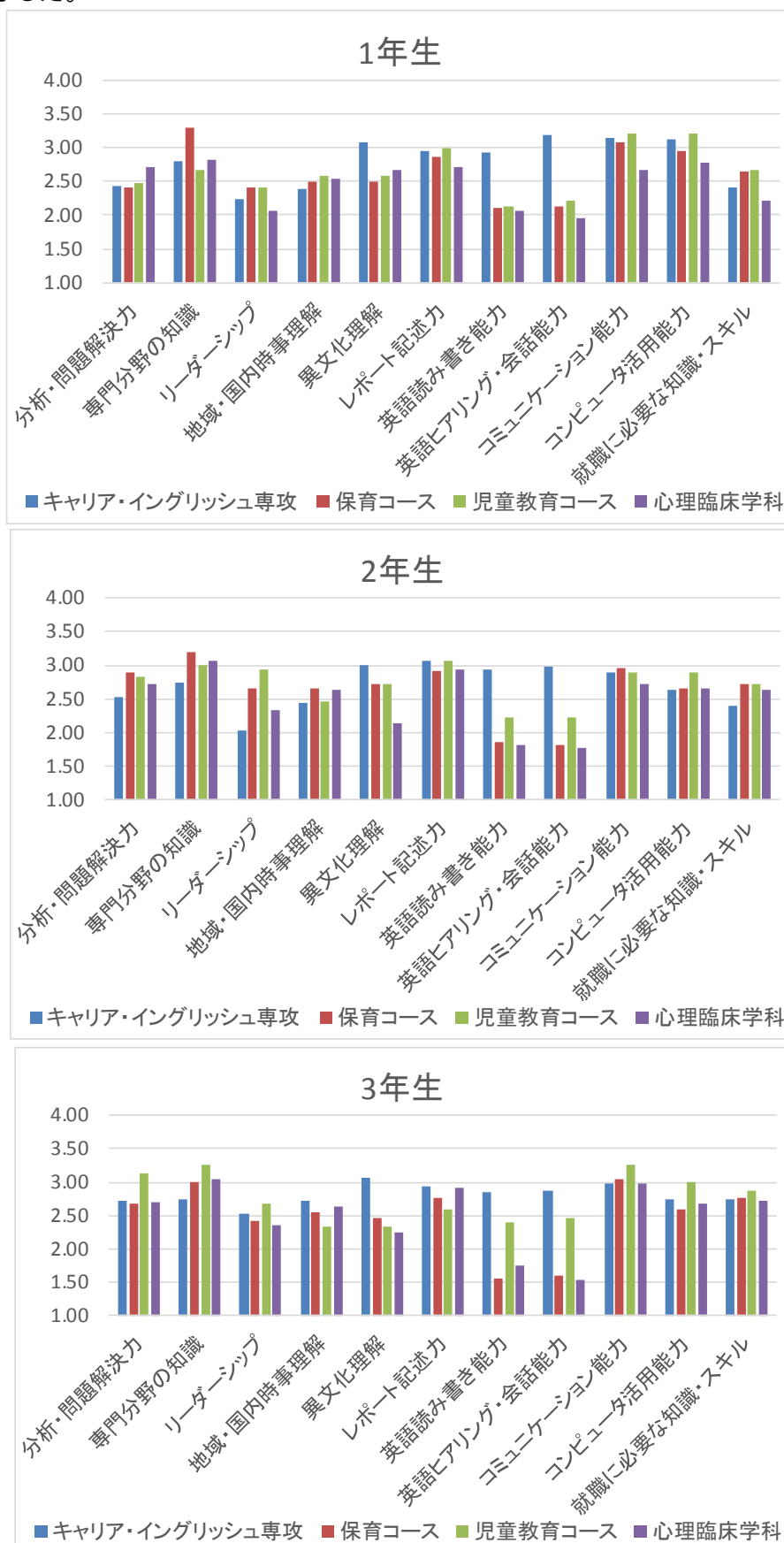
本学の読書1日平均時間は次の図のとおりです。全体平均は12.4分で、読書0分回答学生は全体の56.5%でした。第53回学生生活実態調査報告書(全国大学生協連合会, 2018)では読書1日平均23.6分で、読書0分回答者53.1%と報告しています。読書量の少なさの要因を今後検討する必要があります。

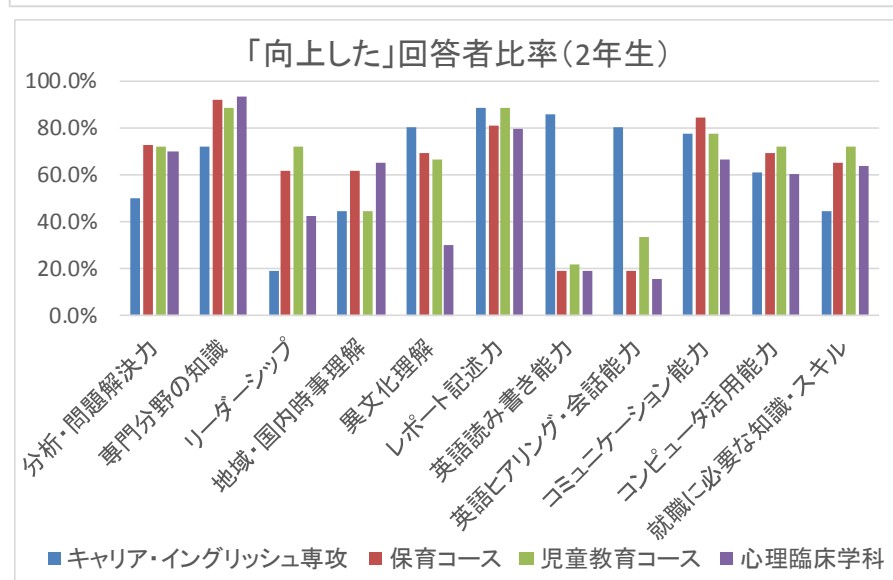
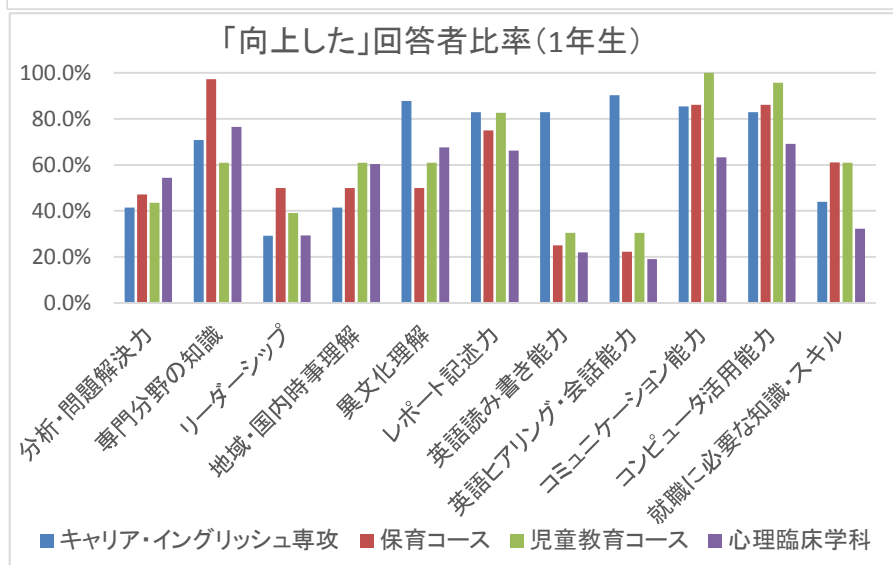
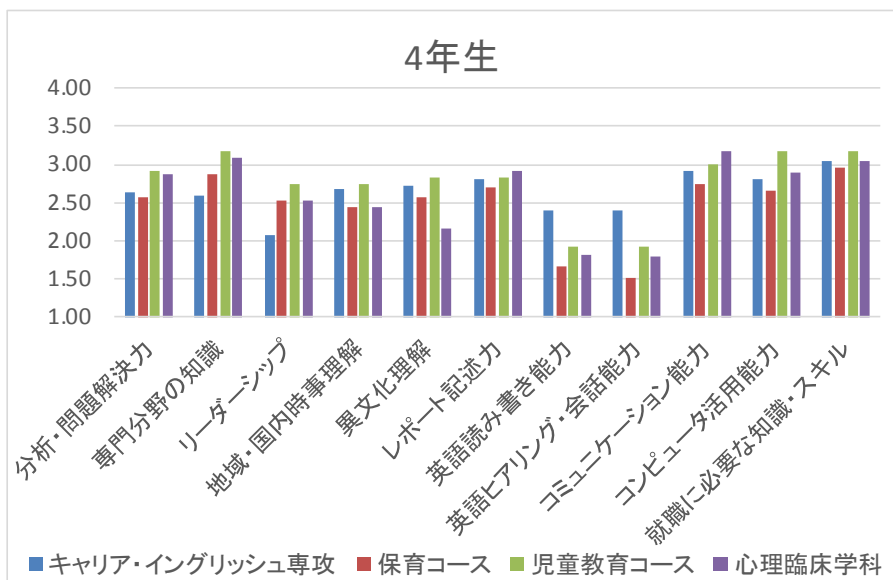


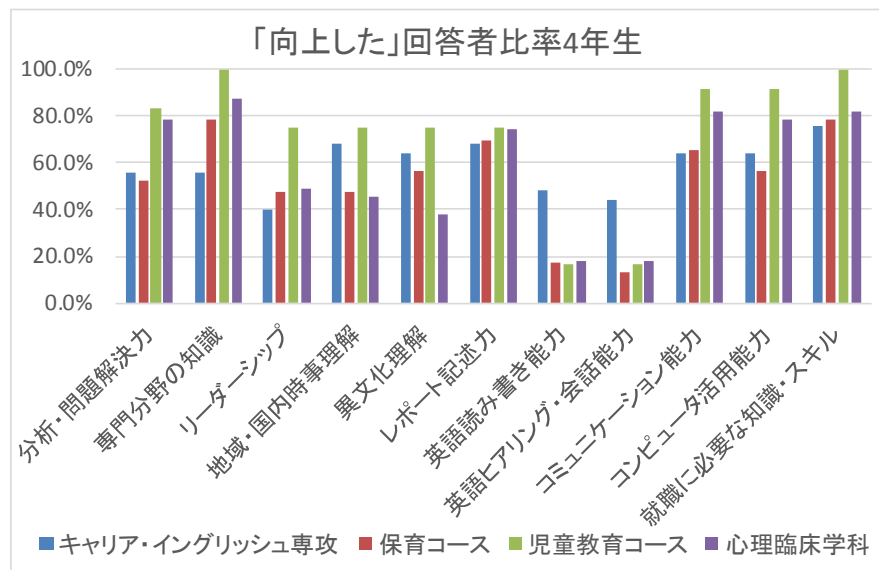
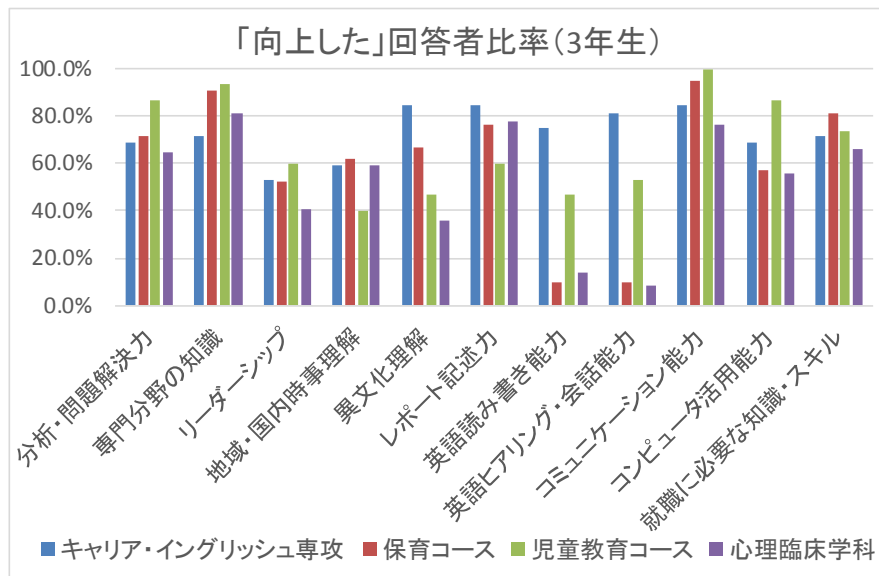
知識・能力向上

2018 年度中に自分の知識や能力はどの程度向上したと感ずるかについて「1. 全く向上していない」「2. あまり向上していない」「3. まあまあ向上した」「4. かなり向上した」の 4 件法で尋ねました。各学年または各学科・専攻・コースの平均値は下図のとおりです。

また、本学の教育の効果を理解するために、「3. まあまあ向上した」以上を回答した学生の人数比率を下図のとおりまとめました。



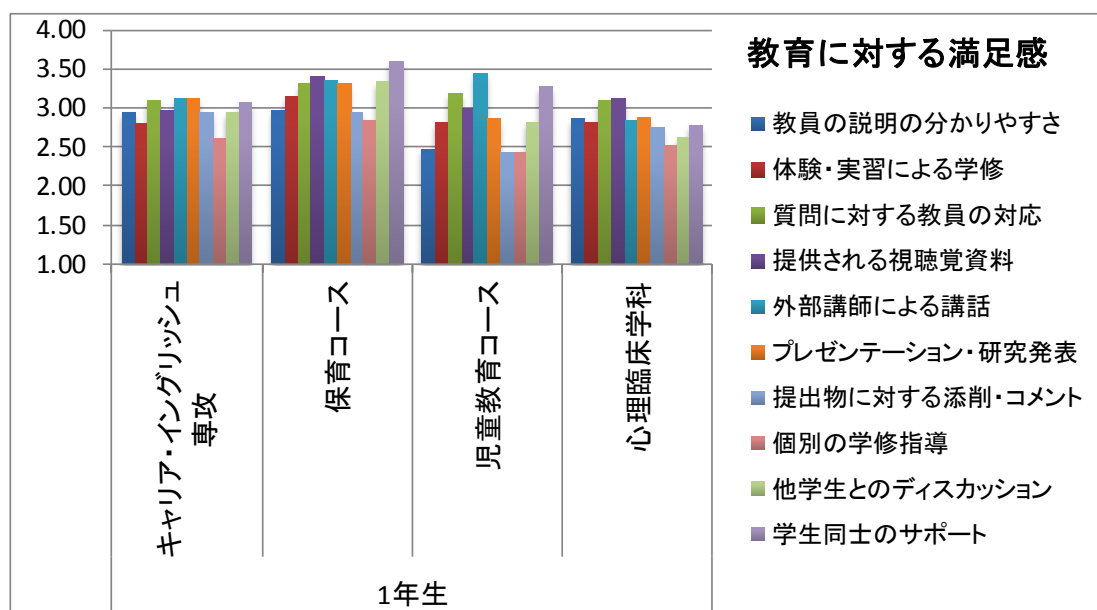
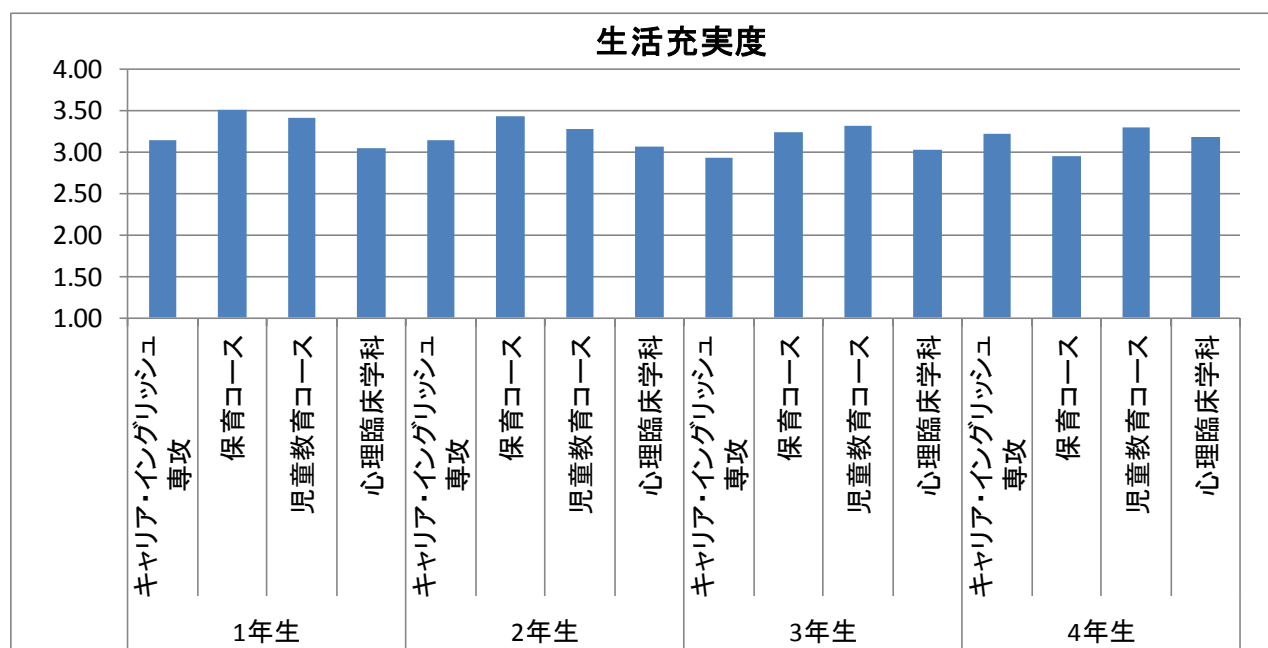


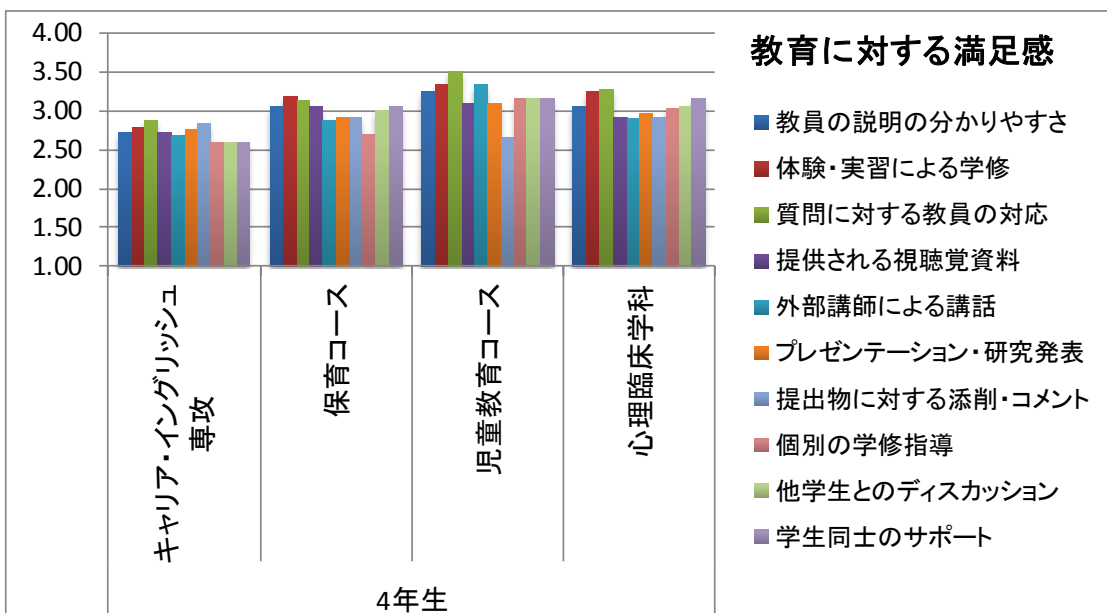
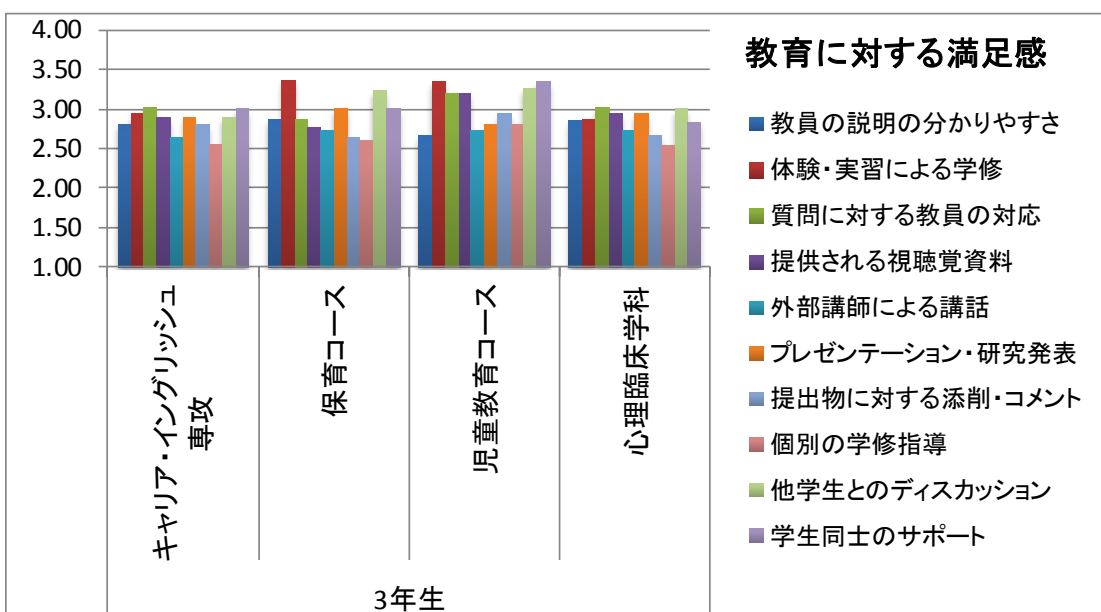
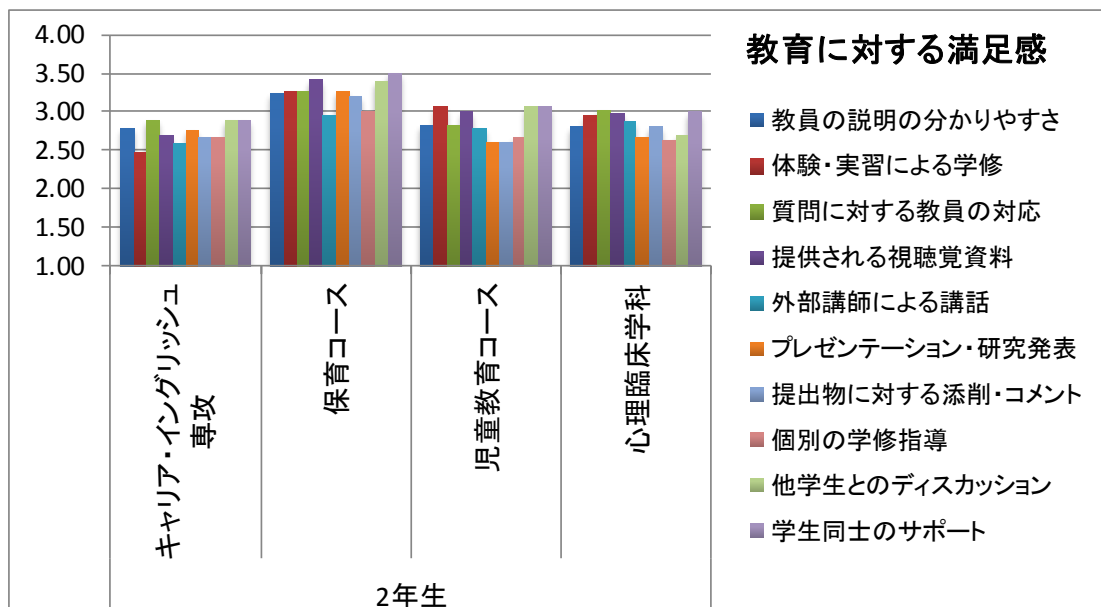


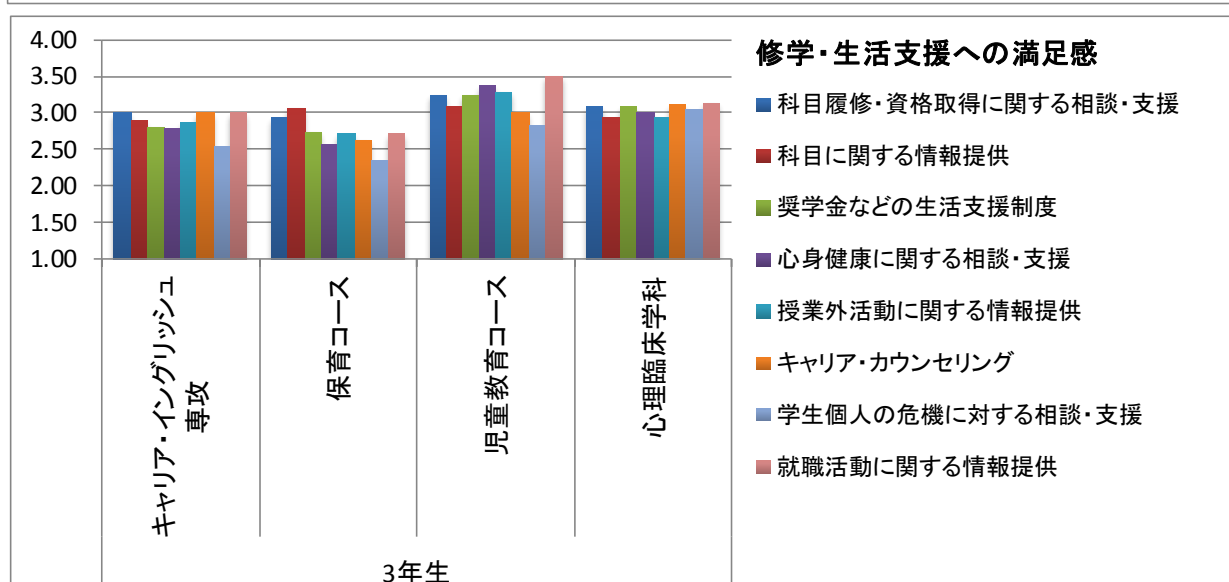
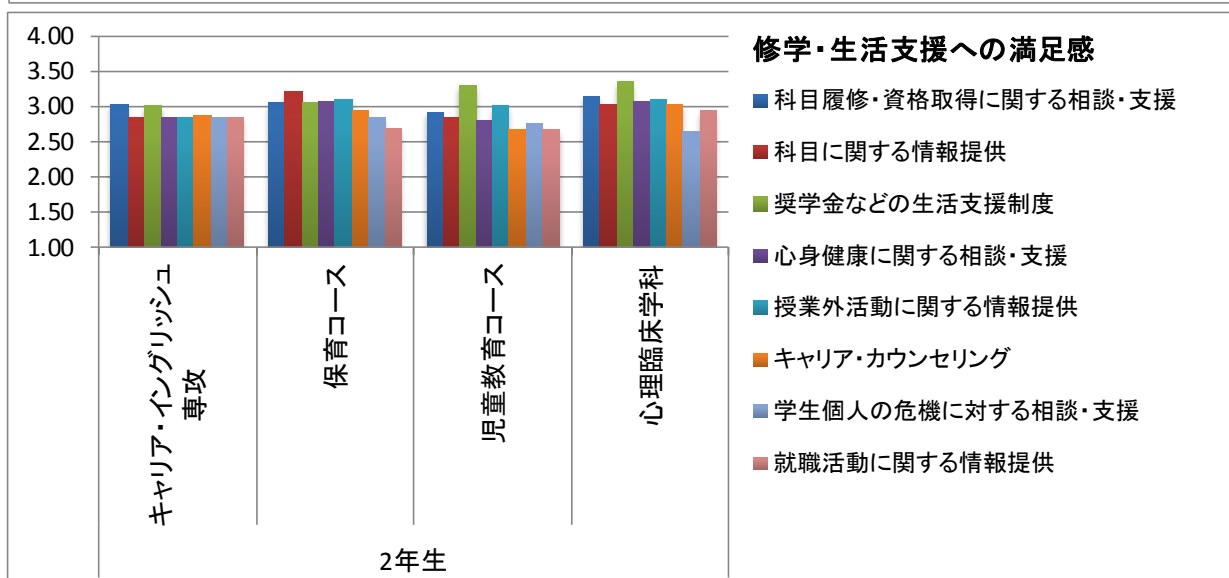
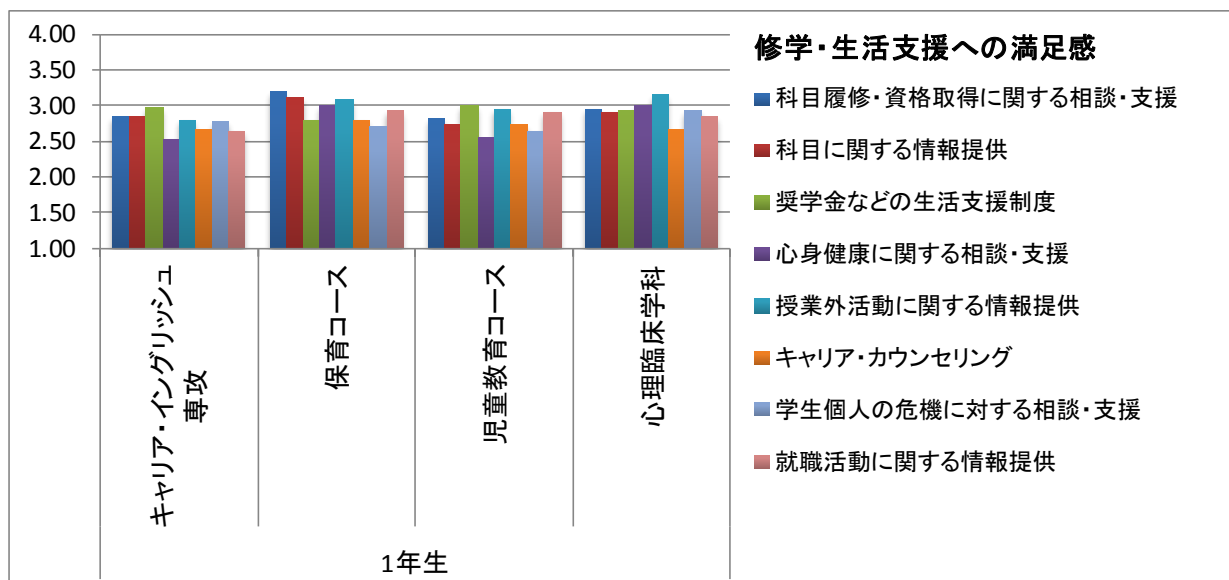
学生生活充実感および教育内容・施設・サービスに対する満足感

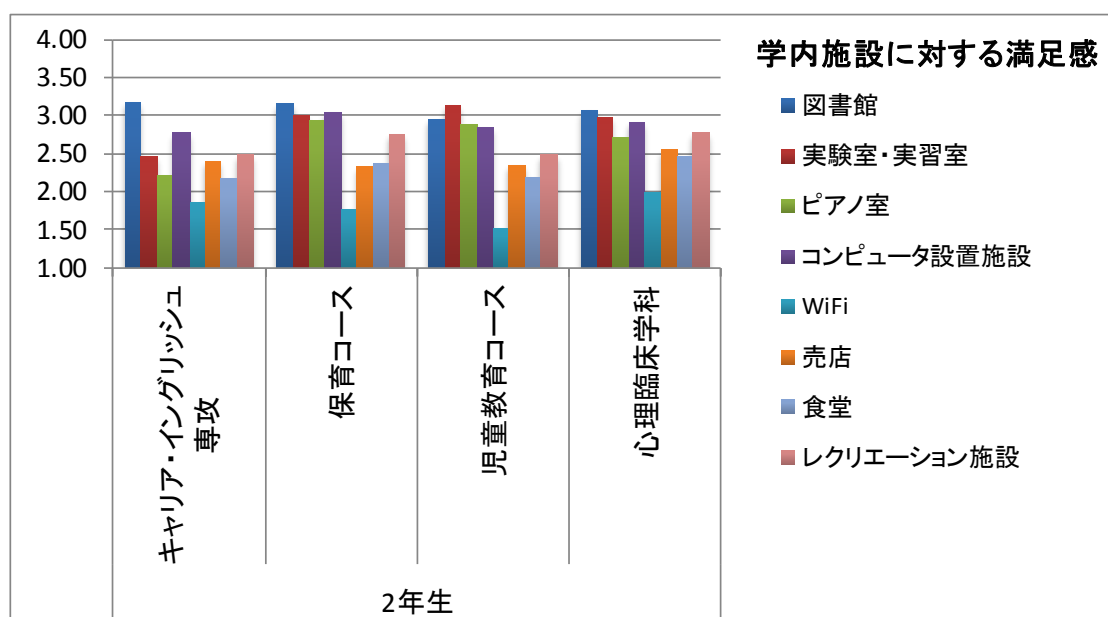
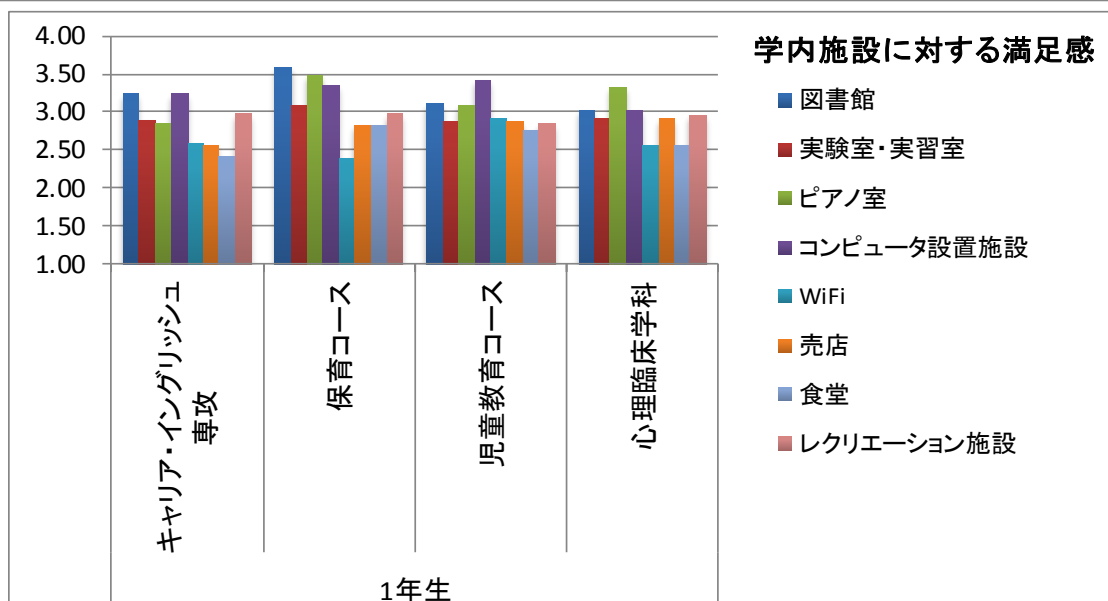
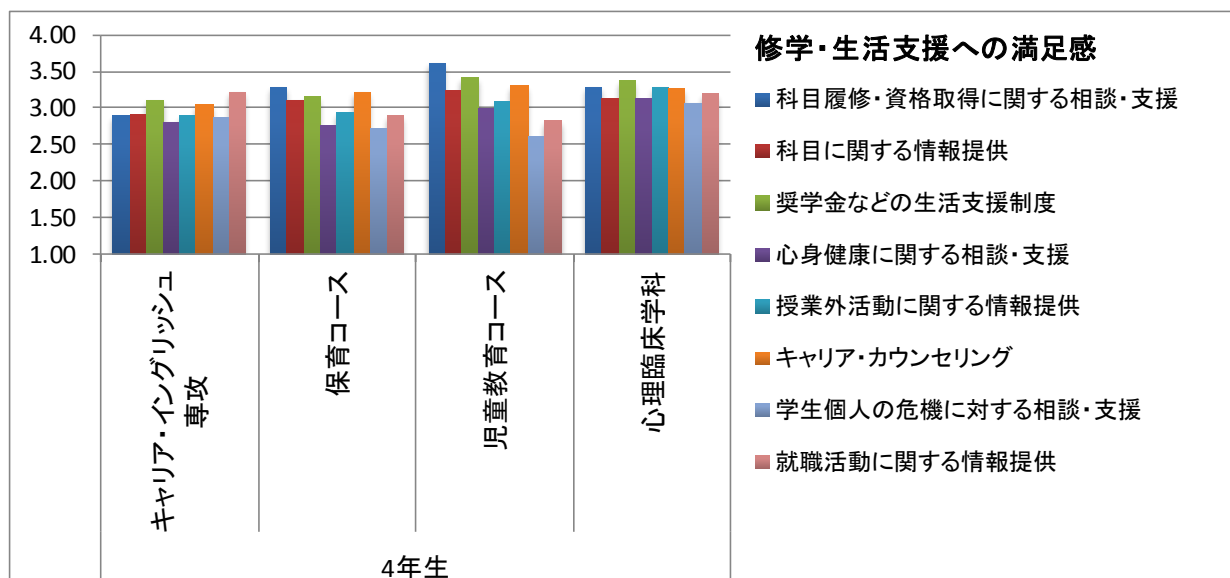
2018 年度も本学での学生生活にどの程度充実感があるか、本学の教育内容・施設・サービスに対してどの程度満足しているかについて、「1. まったく満足(充実)していない」「2. あまり満足(充実)していない」「3. まあまあ満足(充実)している」「4. とても満足(充実)している」の 4 件法で尋ねました。全体および各学年における各学科・専攻・コースの生活充実度と教育・施設等への満足感の平均を図に示します。

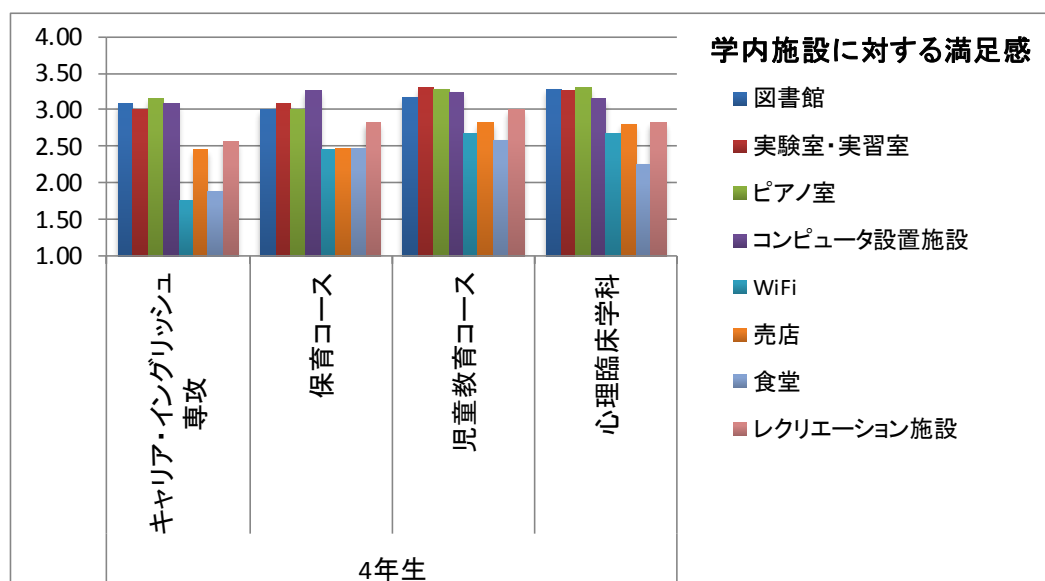
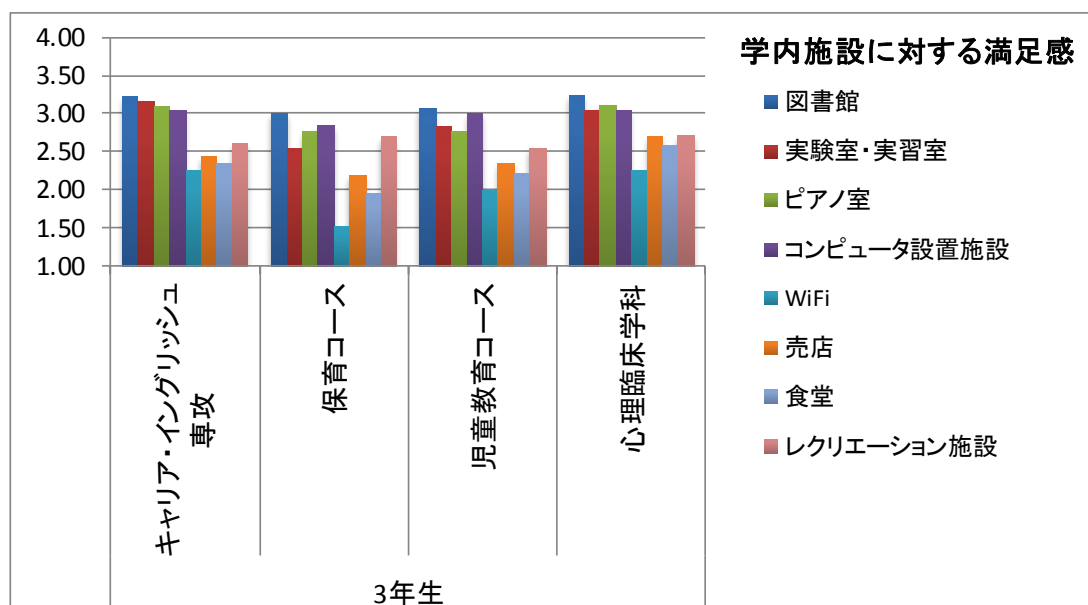
全体をみると、昨年度と同様に、まず「生活充実度」は「3. まあまあ充実している」を超えており、多くの学生が充実した学生生活を送っているものと思われます。また、「質問に対する教員の対応」「科目履修・資格取得に関する相談・支援」「奨学金などの生活支援制度」「図書館」「ピアノ室」「コンピュータ設置施設」は「3. まあまあ満足している」に達しており、特に学生にとって学修環境と生活支援体制はかなり整備されていると思われます。一方、「WiFi」「食堂」は評定値 2.5 を下回る結果となっています。ただし、2018 年度調査後に WiFi ルーターが各教室に導入され、WiFi 環境は整備されました。











資格取得希望・達成状況

2018 年度も昨年度と同様に、調査時点で学生に、卒業前後で得られる資格（保育士資格を含む）についてはどのような資格を目指しているか（あるいはすでに取得したか）を尋ねました。また、検定においては、どの程度の目標レベルを目指しているかあるいはどの程度のレベルに到達したかを尋ねました。なお、取り組んでいる学生が少ない TOEFL、保育英語検定、秘書検定、サービス接遇検定、ビジネス電話検定では集計していません。また、検定の級数の集計において準 1 級を 1.5、準 2 級を 2.5 としており、級数の集計値が低いほどレベルが高いことになります。

